

# 成田市スポーツツーリズム推進戦略

Narita City Sport Tourism Promotion Strategy



平成29年3月

成田市



# 目 次

<b>序章 基本的事項</b> .....	1
(1) 背景・目的.....	1
(2) 推進戦略の位置づけ.....	1
<b>第1章 戦略検討にあたっての基礎的条件</b> .....	2
(1) スポーツをめぐる動向.....	2
(2) 観光をめぐる動向.....	7
(3) スポーツツーリズムの動向.....	9
(4) 上位・関連計画の概要.....	11
<b>第2章 成田市におけるスポーツツーリズムに関する現状</b> .....	14
(1) スポーツに関する現況.....	14
(2) 観光をめぐる動向.....	23
(3) 関連組織の概要.....	33
<b>第3章 関連団体等の意向等</b> .....	37
(1) 市内関連団体の意向.....	37
(2) 先進事例団体等との意見交換.....	46
(3) 市民の意見・アイデア.....	51
(4) 既往調査に見る市民意向.....	52
<b>第4章 スポーツツーリズム推進上の課題</b> .....	53
(1) スポーツツーリズムの推進を考える上での強みと弱み.....	53
(2) スポーツツーリズムを推進するにあたっての課題.....	54
<b>第5章 スポーツツーリズム推進戦略</b> .....	56
(1) 成田市の目指すスポーツツーリズムの姿.....	56
(2) スポーツツーリズム推進の基本方針.....	57
(3) スポーツツーリズム推進戦略.....	59
<b>参考資料</b> .....	74
(1) 戦略検討の経緯.....	74
(2) 成田市2020年東京オリンピック・パラリンピック等準備委員会設置要綱(案).....	75
(3) 関連団体等の意向調査.....	77





## 序章 基本的事項

### (1) 背景・目的

成田市（以下、原則として「本市」と記述する。）では、2004年（平成16年）11月に「スポーツ健康都市宣言」を行い、スポーツを主体としたまちづくりを推進してきました。

その後我が国のスポーツ環境をめぐっては、スポーツ基本法の制定（2011年（平成23年）8月施行）とスポーツ基本計画の策定（2012年（平成24年）3月）、東京オリンピック・パラリンピックの開催の決定（2013年（平成25年）9月）といった大きな動きがあり、スポーツを基軸としたまちづくりをさらに発展させていくことの重要性が高まりを見せています。

また、本市の総合計画において、重点施策の1つとして「スポーツツーリズムの推進」を位置づけました。こうしたことから、2020年東京オリンピック・パラリンピック開催を絶好の機会と捉え、本市特有の地域資源を生かしたスポーツツーリズム（スポーツを通じた誘客や観光振興）推進の実現に向けた戦略を策定することとしました。

### (2) 推進戦略の位置づけ

本戦略は、国や県が策定しているスポーツや観光関連の諸計画が示す方向性を踏まえ、本市の「成田市総合計画 NARITA みらいプラン（2016年（平成28年）3月策定）」を上位計画とし、「第2次成田市生涯スポーツマスタープラン（2011年（平成23年）2月策定）」を補完するとともに連携を図るものです。

また、本戦略はスポーツツーリズムに係る多様な主体が方向性を共有し、その実現に向けて、今後の具体的な検討・活動を進めていくための共通の指針とします。

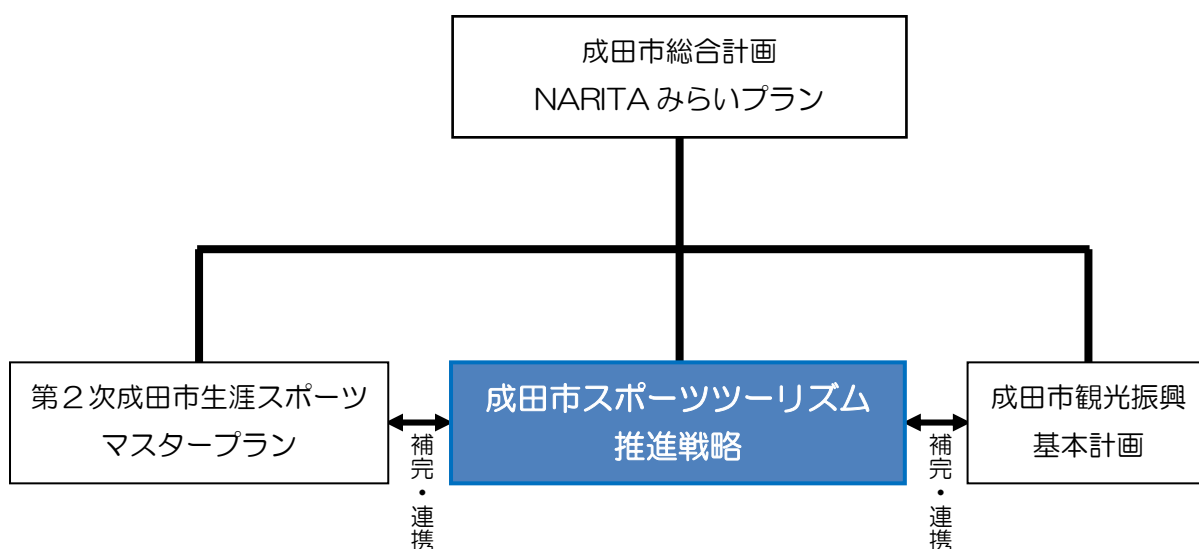


図 本戦略の位置づけ

# 第1章 戦略検討にあたっての基礎的条件

## (1) スポーツをめぐる動向

### 1) スポーツ振興に関する法制定等

#### ①スポーツ基本法の制定

国は、1961年（昭和36年）に制定されたスポーツ振興法を50年ぶりに全部改正し、2011年（平成23年）8月にスポーツ基本法を制定しました。

スポーツ基本法は、スポーツに関し、基本理念を定め、国及び地方公共団体の責務並びにスポーツ団体の努力義務等を明らかにするとともに、スポーツに関する施策の基本となる事項を定めることにより、スポーツに関する施策を総合的かつ計画的に推進し、もって国民の心身の健全な発達、明るく豊かな国民生活の形成、活力ある社会の実現及び国際社会の調和ある発展に寄与することを目的としています。

#### ②スポーツ基本計画の策定

スポーツ基本計画は、スポーツ基本法の第9条の規定に基づいて、その理念を具体化し、我が国のスポーツ施策の具体的な方向性を示すもので、2012年（平成24年）3月30日に告示されたものです。

スポーツ基本計画では、「スポーツを通じてすべての人々が幸福で豊かな生活を営むことができる社会」を創出するため、「年齢や性別、障害の有無等を問わず、広く人々が、関心、適性等に応じてスポーツに参画することができる環境を整備すること」を基本的な政策課題とし、7つの課題ごとに政策目標を設定し、スポーツの推進に取り組み、スポーツ立国の実現を目指すこととしています。

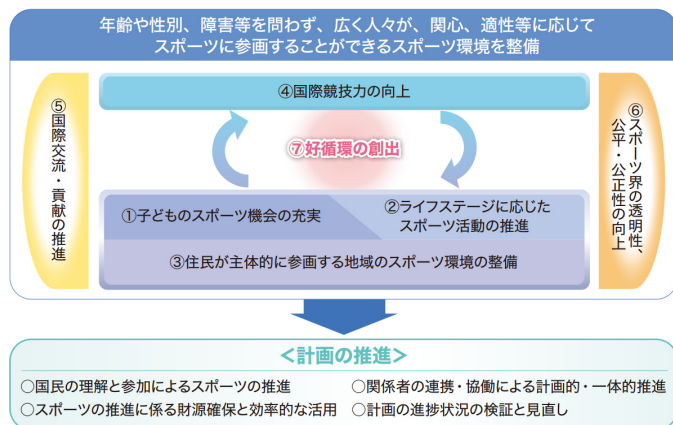


図 スポーツ基本計画の全体像

(出典) スポーツ基本計画リーフレット 文部科学省

#### ③スポーツ庁の設立

国は、スポーツ基本法及びスポーツ基本計画に基づいたスポーツ振興施策を総合的に推進するため、2015年（平成27年）10月に文部科学省の外局として、スポーツ庁を設置しました。

スポーツ庁は、スポーツ基本法の理念である「スポーツを通じて『国民が生涯にわたり心身ともに健康で文化的な生活を営む』ことができる社会の実現」を目指し、スポーツ庁が中核となり、文部科学省の旧来からのスポーツ振興に加えて、他省庁とも連携して多様な施策を展開し、スポーツ行政の総合的な推進を図っています。

## 2) 我が国で開催が予定されている大規模国際スポーツ競技大会

### ①2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会

2020年(平成32年)夏に、1964年(昭和39年)以来の東京オリンピック及びパラリンピックが開催されることとなっており、準備が進められているほか、関連インフラの整備や訪日プロモーションなど、様々な取り組みが行われています。事前キャンプの誘致活動も活発化しています。

大会のビジョンとして「スポーツには世界と未来を変える力がある。」を掲げ、「全員が自己ベスト」、「多様性と調和」、「未来への継承」を基本コンセプトとしています。

オリンピック(7月24日から8月9日)では38競技が、パラリンピック(8月25日から9月6日)では22競技が行われることになっています。

### ②ラグビーワールドカップ2019日本大会

東京オリンピック・パラリンピックに先立つ2019年(平成31年)には、アジアで初となるラグビーワールドカップが日本で開催されます。

2015年(平成27年)に、12箇所を開催都市として決定しましたが、国では、大会の円滑な準備及び運営に資するための特別措置法が成立しました。さらに2016年(平成28年)2月には、「ラグビーワールドカップ2019の準備及び運営に関する施策の推進を図るための基本方針」を決定しました。

この方針に基づいて、現在、国や開催自治体、公益財団法人ラグビーワールドカップ2019組織委員会、公益財団法人日本ラグビーフットボール協会等が連携した取り組みを進めているところです。

### <コラム：スポーツイベントによる経済的効果>

スポーツイベントの誘致等の効果として、新たな消費と雇用が創出されることで、地域の経済成長につながると考えられます。

また、市民がスポーツイベントに関わることで、スポーツ・運動に対する市民の意識が高まり、スポーツ・運動を行う機会の増加により、医療・福祉費用の抑制などにつながると考えられます。新潟県見附市では、運動をするプログラム<sup>\*</sup>導入後3年で、医療費が1人当たり年間10万円程度抑制された事例があります。

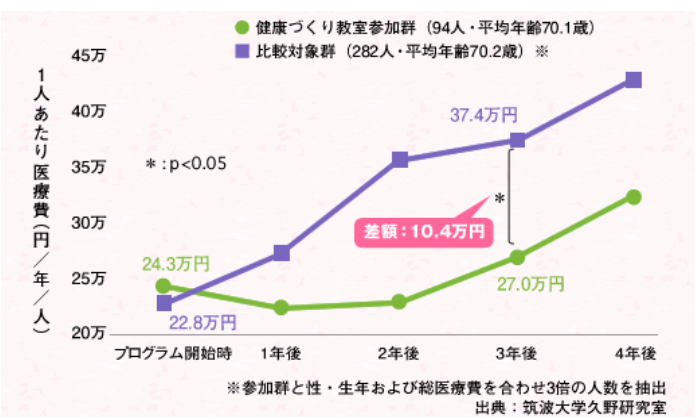


図 新潟県見附市の医療費削減の事例

(出典) スマートウエルネスシティ首長研究会 ホームページ

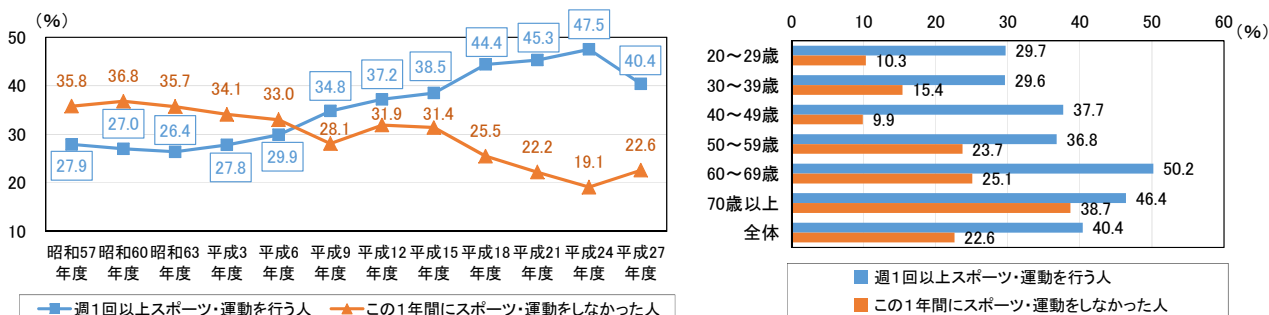
※株式会社つくばウエルネスリサーチが中心となり、多くの住民に対して個別指導と継続支援を可能とする運動・栄養プログラムを提供する管理システム「e-wellness」。

### 3) 国民のスポーツ活動

#### ①スポーツ・運動の実施状況

社会経済の成熟化などを背景として、成人の週1回以上のスポーツ実施率はこれまで順調に増加してきましたが、ここ数年は頭打ちの傾向が見られます。

年代別に見ると、退職後に時間に余裕ができたと考えられる60～69歳の割合が最も高く半数を超えており、20歳代や30歳代の若い世代は3割を下回っています。



(成人)

(世代別)

図 週1回以上スポーツ・運動を行う人の割合

(出典) 内閣府「東京オリンピック・パラリンピックに関する世論調査(2015年(平成27年))」

過去1年間に行ったスポーツ・運動の種類では、「ウォーキング」が最多の50.8%を数え、続いて「体操」が28.9%となっています。世代別に見ると、20歳代は「スキー、スノーボード」が、70歳以上は「ニュースポーツ」が他年代より多く行われています。

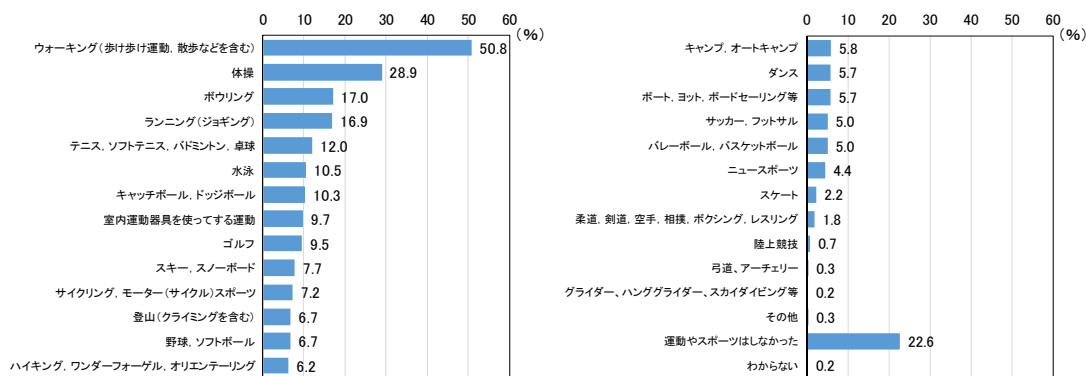


図 国民が過去1年間に行ったスポーツ・運動

表 過去1年間に行ったスポーツ・運動(世代別)

	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上
1位	ウォーキング (50.3%)	ウォーキング (50.4%)	ウォーキング (52.6%)	ウォーキング (53.6%)	ウォーキング (55.7%)	ウォーキング (42.8%)
2位	ボウリング (37.2%)	体操(ラジオ体操含む) (30.4%)	体操(ラジオ体操含む) (40.4%)	体操(ラジオ体操含む) (31.9%)	体操(ラジオ体操含む) (28.3%)	体操(ラジオ体操含む) (20.4%)
3位	ランニング (35.2%)	ランニング (26.2%)	ボウリング (25.4%)	ボウリング (17.1%)	ランニング (12.3%)	ゴルフ (8.4%)
4位	スキー、スノーボード (22.8%)	ボウリング (23.8%)	ランニング (21.9%)	ランニング (16.4%)	ゴルフ (12.3%)	ニュースポーツ(ゲートボールなど) (8.2%)
5位	テニス、バドミントン、卓球 (22.1%)	キャッチボール (20.8%)	キャッチボール (18.4%)	テニス、バドミントン、卓球 (12.5%)	ボウリング (10.8%)	ランニング (5.3%)

(出典) 内閣府「東京オリンピック・パラリンピックに関する世論調査(2015年(平成27年))」

## ②スポーツ観戦

15歳以上の会場等で直接スポーツを観覧した人の割合は減少傾向にあります。一方で、65歳以上の高齢者については増加傾向にあり、高齢者のスポーツへの関心が高まっています。

スポーツに関連する産業に関するデータを編集したスポーツ産業活動指数を見ると、観客動員数が圧倒的に多いプロ野球は、他のスポーツに比べて安定して推移しています。他方で、相撲は2011年（平成23年）に落ち込んだ後、若手力士の活躍などで人気が復活して大幅に上昇しています。

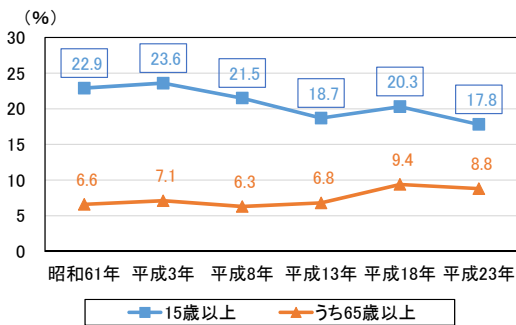


図 スポーツ観覧（テレビ・DVDなどは除く）の行動者率の推移  
（出典）社会生活基本調査

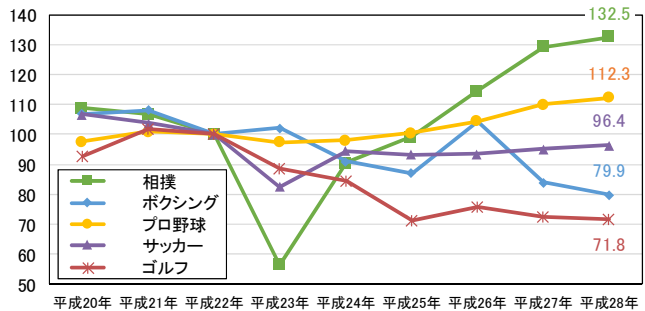


図 スポーツ産業活動指数（プロスポーツ）の推移（2010年（平成22年）を100とした場合）  
（出典）経済産業省「第3次産業活動指数」

## ③スポーツボランティアの実施状況

スポーツボランティア活動に参加したことがあるか聞いたところ、「ボランティア活動に参加したことがある」と答えた人の割合が7.4%となっており、2012年（平成24年）調査から4ポイント減少しています。

年齢別に見ると、20歳代から40歳代の若い世代が「スポーツボランティアに参加したことがある」と答えた人の割合が、他の年代に比べ高くなっています。

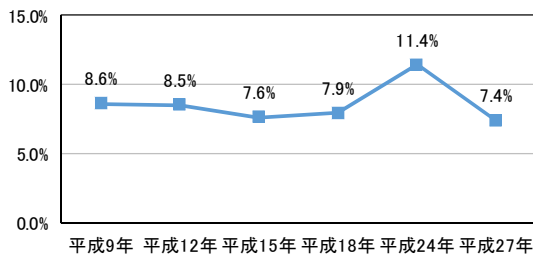


図 スポーツに関するボランティア活動の有無の推移  
（出典）内閣府「東京オリンピック・パラリンピックに関する世論調査（2015年（平成27年）」

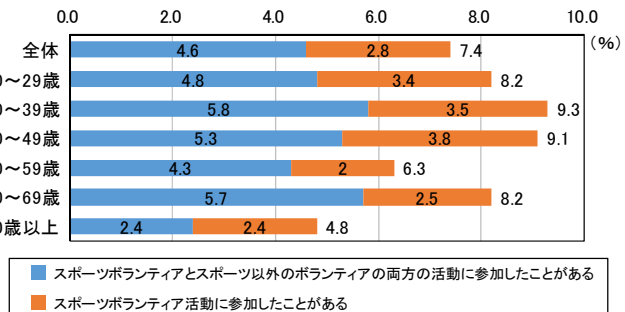


図 スポーツに関するボランティア活動の有無（世代別）

#### 4) 国のスポーツ関連施策

国が進める主要なスポーツ振興施策の体系を、スポーツ基本計画に示されている「今後5年間に総合的かつ計画的に取り組むべき施策」から引用して整理すると、以下のとおりです。

##### ①学校と地域における子どものスポーツ機会の充実

幼児期からの子どもの体力向上方策の推進／学校の体育に関する活動の充実／子どもを取り巻く社会のスポーツ環境の充実

##### ②若者のスポーツ参加機会の拡充や高齢者の体力づくり支援等のライフステージに応じたスポーツ活動の推進

ライフステージに応じたスポーツ活動等の推進／スポーツにおける安全の確保

##### ③住民が主体的に参画する地域のスポーツ環境の整備

コミュニティの中心となる地域スポーツクラブの育成・推進／地域のスポーツ指導者等の充実／地域スポーツ施設の充実／地域スポーツと企業・大学等との連携

##### ④国際競技力の向上に向けた人材の養成やスポーツ環境の整備

ジュニア期からトップレベルに至る戦略的支援の強化／スポーツ指導者及び審判員等の養成・研修やキャリア循環の形成／トップアスリートのための強化・研究活動等の拠点構築

##### ⑤オリンピック・パラリンピック等の国際競技大会等の招致・開催等を通じた国際交流・国際貢献の推進

オリンピック・パラリンピック等の国際競技大会等の招致・開催等／スポーツに係る国際交流及び国際貢献の推進

##### ⑥ドーピング防止やスポーツ仲裁等の推進によるスポーツ界の透明性、公平・公正性の向上

ドーピング防止活動の推進／スポーツ団体のガバナンス強化と透明性の向上に向けた取組みの推進／スポーツ紛争の予防及び迅速・円滑な解決に向けた取組みの推進

##### ⑦スポーツ界における好循環の創出に向けたトップスポーツと地域におけるスポーツとの連携・協働の推進

トップスポーツと地域におけるスポーツとの連携・協働の推進／地域スポーツと企業・大学等との連携



## (2) 観光をめぐる動向

### 1) 国内旅行

2015年（平成27年）の国民1人当たりの国内宿泊観光旅行の回数は約1.4回（対前年比7.7%増）、宿泊数は約2.4泊（同9.1%増）となっており、その結果、国内旅行消費額は、20.4兆円（同10.7%増）となりました。

消費税率の引き上げの影響等により前年に落ち込んだ反動や、北陸新幹線の開業などにより、再び上昇に転じています。

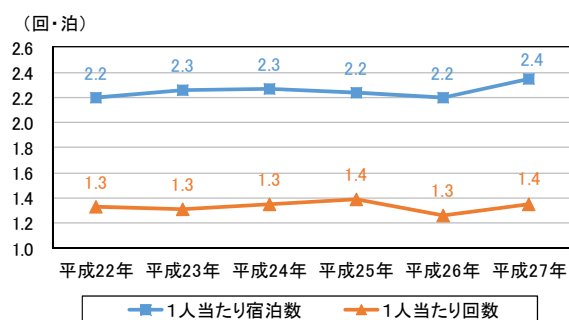


図 国内宿泊観光旅行の回数及び宿泊数の推移

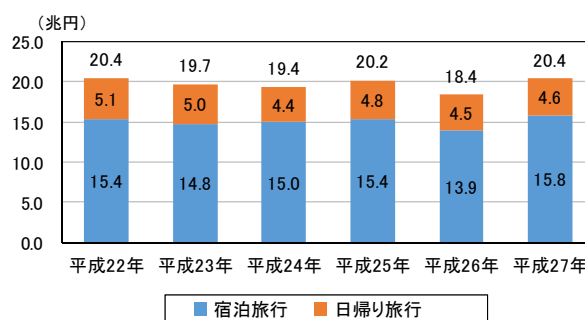


図 国内旅行消費額の推移

（出典）観光庁「旅行・観光消費動向調査」

### 2) 訪日外国人旅行者

訪日外国人旅行者数は、リーマンショックや東日本大震災などの影響により減少が見られた年もありましたが、ほぼ一貫して増加を見せています。

特にここ数年の増加傾向が顕著であり、2015年（平成27年）の訪日外国人旅行者数は、約1,974万人（対前年比47.2%増）となり、直近3年間で1,000万人を越える増加を見せています。

国籍・地域別では、中国が最大で全体の25.3%を占めており、以下、韓国・台湾・香港と続いています。

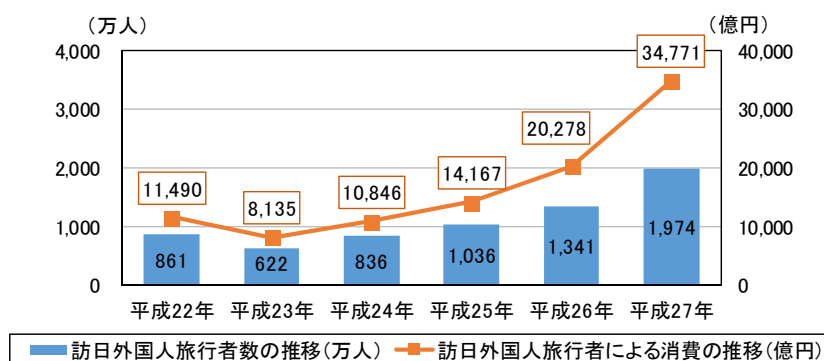


図 訪日外国人旅行者数及び訪日外国人旅行者による消費の推移

（出典）日本政府観光局（JNTO）「統計データ（訪日外国人・出国日本人）」、観光庁「旅行・観光消費動向調査」

### 3) 国の観光振興施策

国では、観光振興を図るにあたって「観光立国」の実現を目指しており、以下に示すような施策を推進しています。

#### ①インバウンド新時代に向けた戦略的取組み

日本政府観光局（JNTO）を事業主体としたビジット・ジャパン事業の実施（以前は観光庁が実施）／ビザ緩和の取組み／海外富裕層の長期滞在需要の取り込みを図るための外国人の観光目的による長期滞在制度の導入

#### ②観光旅行消費の一層の拡大、幅広い産業の観光関連産業としての取り込み及び観光産業の強化

外国人旅行者向け消費税免税制度の拡充／保税売店の市中展開による買い物魅力の向上／観光産業の活性化・生産性向上に向けた人材の育成

#### ③地方創生に資する観光地域づくり及び国内観光の振興

国際競争力の高い魅力ある観光地域の形成／観光資源を活かした観光地域づくりの支援

#### ④先手を打っての「攻め」の受入れ環境整備

宿泊施設の供給確保／多言語対応・観光案内の強化／通訳案内士制度の見直し／無料公衆無線 LAN 環境の整備促進など、外国人旅行者向け通信環境の改善／外国人旅行者の安心・安全確保／クルーズ船の受入れ環境整備／ムスリム旅行者の一層の受入れ促進

#### ⑤外国人ビジネス客等の積極的な取り込み、質の高い観光交流

外国人ビジネス客の取り込み強化／国際会議等の MICE 分野の国際競争力強化

#### ⑥「リオデジャネイロ大会後」、「2020年東京オリンピック・パラリンピック」及び「その後」を見据えた観光振興の加速

大規模スポーツ国際大会を契機とした訪日プロモーション／オリンピック・パラリンピック開催を契機としたバリアフリー化の加速／オリンピック・パラリンピックを機に訪日する外国人旅行者の受入れ環境整備

#### ⑦「明日の日本を支える観光ビジョン（2016年（平成28年）3月策定）」

訪日外国人旅行者数等に関する新たな数値目標を設定／3つの視点に沿って35項目の施策を盛り込んでいる

視点1：観光資源の魅力を極め、地方創生の礎に

視点2：観光産業を革新し、国際競争力を高め、我が国の基幹産業に

視点3：すべての旅行者が、ストレスなく快適に観光を満喫できる環境に



### (3) スポーツツーリズムの動向

#### 1) スポーツツーリズムとは

「スポーツツーリズム」とは、スポーツ資源（観るスポーツとするスポーツ）とツーリズム（観光）資源を融合する取組みのことであり、具体的には、「スポーツ参加や観戦を目的とした旅行と、それらを実践する仕組みや考え方」と定義することができます。

スポーツツーリズムの促進により、豊かな観光資源の創造、新しいビジネスの創出、地域の活性化などを目指そうとするものです。

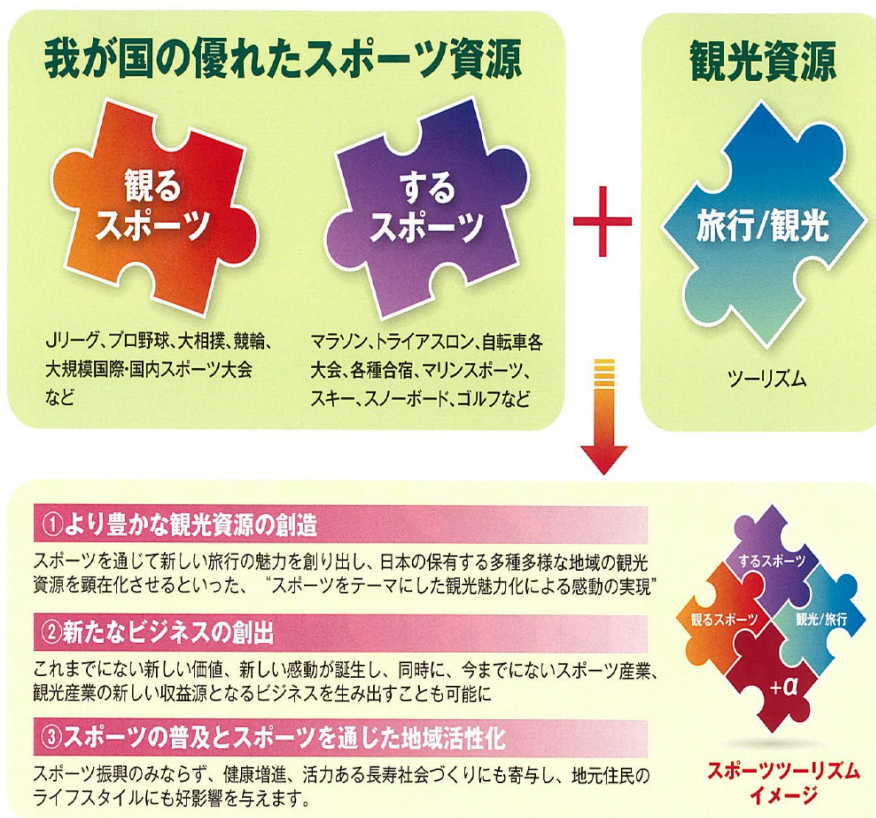


図 スポーツツーリズムの概念

(出典)(一社)日本スポーツツーリズム推進機構(JSTA)「スポーツツーリズムガイドブック」

1990年代頃から、マラソン大会などに旅行の要素が認められることが明らかになってきたことにより、スポーツツーリズムが注目されるようになりました。その後、Jリーグ発足によるサッカー人気の高まり、日本人メジャーリーガーの誕生やサッカーワールドカップ大会の日韓共催などを機会に、国内外へのスポーツ観戦を目的としたツアーが多く見られるようになり、「観戦（観る）スポーツ」を伴ったツーリズムが市場を拡大しました。

一方で、「するスポーツ」も多様化し、スキー人口減少の一部をスノーボード人気が増えといった変化も見られるようになりました。

こうした中、特に、スポーツイベントの招致・開催により外から人を呼び込み、それを地域の活性化につなげるスポーツツーリズムが関心を集めるようになります。

## 2) スポーツツーリズム推進に向けた動向

### ①自治体によるツーリズム推進のための組織設立の動き

地方分権の進展とともに、自治体間競争が激化する中、独自の地域活性化を図る観点から「スポーツツーリズム」に力を入れる自治体が増えました。

欧米で誕生したスポーツツーリズム推進の母体組織である地域プラットフォーム組織に注目が集まり、さいたま市をはじめ、我が国の多くの自治体において、スポーツツーリズム推進のための地域プラットフォーム組織が設立されました。

戦略的なプロモーション、ビジターの誘致や受入れ、事業計画の立案、資源・商品開発とブランディングなどの活動を行っています。

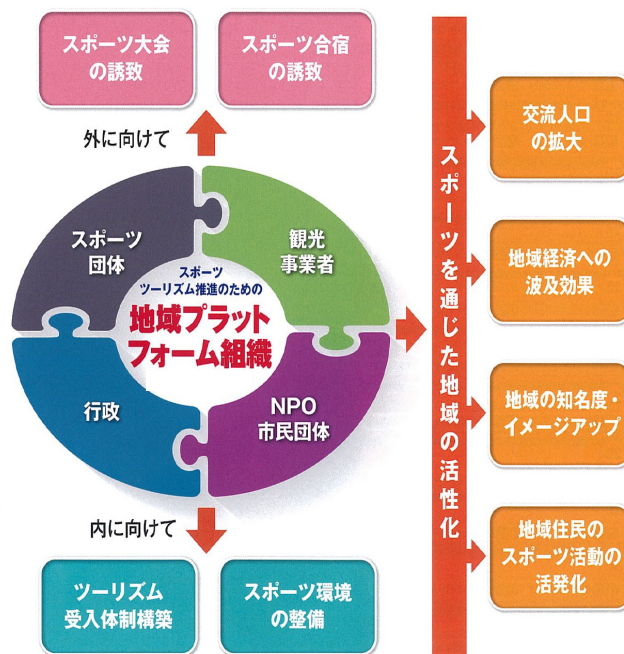


図 地域プラットフォーム組織の概念

(出典)(一社)日本スポーツツーリズム推進機構(JSTA)  
「スポーツツーリズムガイドブック」

### ②国の取組み

国においても、「観光立国」、続いて「スポーツ立国」の形成を国家目標に掲げ、スポーツと観光を融合させた地域活性化の取組みを支援しています。

2011年(平成23年)には、スポーツ・ツーリズム推進連絡会議が、「スポーツツーリズム推進基本方針～スポーツで旅を楽しむ国・ニッポン～」を策定しており、次の5点を基本的方向として示しています。

- 魅せるスポーツコンテンツづくりとスポーツ観光まちづくり
- 国際競技大会の積極的な招致・開催
- 旅行商品化と情報発信の推進
- スポーツツーリズム人材の育成・活用
- オールジャパンのスポーツツーリズム推進連携組織(JSTA)の創設

### ③JSTAの設立

スポーツツーリズム推進基本方針を受け、2012年(平成24年)に、官民連携の「ハブ組織」である「一般社団法人日本スポーツツーリズム推進機構(JSTA)」が設立されました。我が国におけるスポーツツーリズム推進の中核的な組織として、地域プラットフォーム形成の支援や国際スポーツ大会等の誘致・開催に関する協力等の事業を行っています。

## (4) 上位・関連計画の概要

### 1) 国の計画

#### ①スポーツ立国戦略

2010年(平成22年)8月に文部科学省が策定した、国の重要政策の1つである「スポーツ立国」の実現を図る上での国のスポーツ施策の方向を示す計画です。

「新たなスポーツ文化の確立」を目標に、5つの重要戦略や法制度・税制・組織・財源などの体制整備等を示しています。

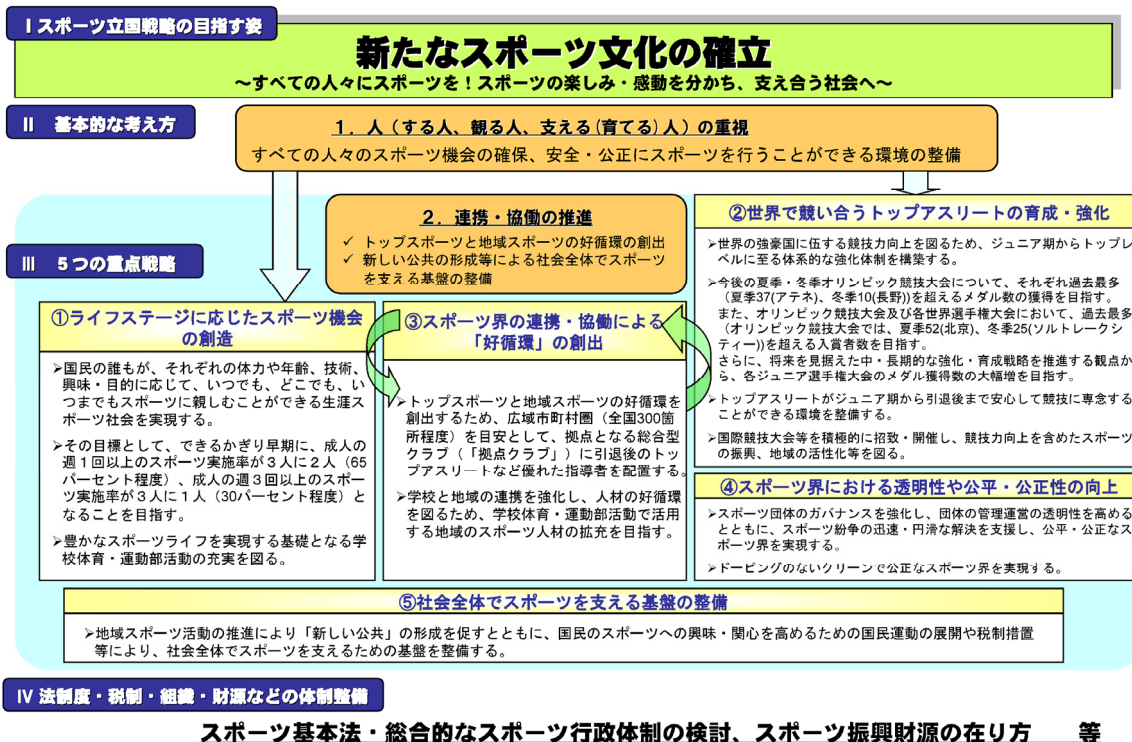


図 スポーツ立国戦略の概要

(出典) 文部科学省「スポーツ立国戦略の概要」

#### ②スポーツ基本計画

スポーツ基本法に基づき2012年(平成24年)3月に文部科学省が策定した、国・自治体・団体・事業者等が協働で取り組むスポーツ振興施策に係る計画です。

今後10年間を見通した基本方針とともに、5年間の間に取り組むべき具体的な施策等を示しています。

#### ③観光立国推進基本計画

観光立国推進基本法の規定に基づく、観光立国の実現に関する基本的な計画です。2017年度(平成29年度)からの新たな計画が2017年(平成29年)3月に閣議決定されました。

政府が総合的かつ計画的に講ずべき施策として、国際競争力の高い魅力ある観光地域の形成において、スポーツツーリズムの推進が位置づけられています。



## 2) 千葉県の計画

### ①第 11 次千葉県体育・スポーツ推進計画

2012 年（平成 24 年）3 月に策定された、体育とスポーツの振興に係る計画です。5 つの柱と目標を定めて、各々について施策の方向を示しています。

柱の「スポーツを活用した地域の活力づくり」において、サイクルツーリズムの推進や県外の大学生や高校生のスポーツ合宿等の誘致等が位置づけられています。

### ②観光立県ちば推進基本計画

2008 年（平成 20 年）に策定した県の観光振興に係る計画を、次の 5 年間に目指すべき方向と達成する施策を明らかにする観点から 2014 年（平成 26 年）3 月に改訂した第 2 次計画です。

戦略 1 の「何度でも訪れたい魅力ある観光地づくり」において、千葉県の特性を生かしたスポーツツーリズムの推進が位置づけられています。

また、6 つの県内各地域の観光戦略が示され、本市を含む北総地域の施策の展開について「集客力の高い観光拠点を中心に、テーマ性を持たせ、来訪者の周遊を目指し、広域で連携するとともに、交通アクセスの改善にも取り組む」、「成田空港を中心とした地域では訪日外国人観光客の受入体制を整備する」等の方向性が示されています。

### ③2020 年東京オリンピック・パラリンピックに向けた千葉県戦略

2015 年（平成 27 年）3 月に策定後、6 月に千葉県での競技開催決定を受け、開催地としての取組みを盛り込むため、同年 10 月に改訂が行われました。

「2020 年東京オリンピック・パラリンピックに向けた取組の基本方針」で示される 5 つの「取組の方向性」に沿って、企業・団体・大学・行政などがそれぞれ主体的かつ連携しながら、千葉県の総力を集めた「チーム千葉」で取り組む、10 の戦略が示されています。

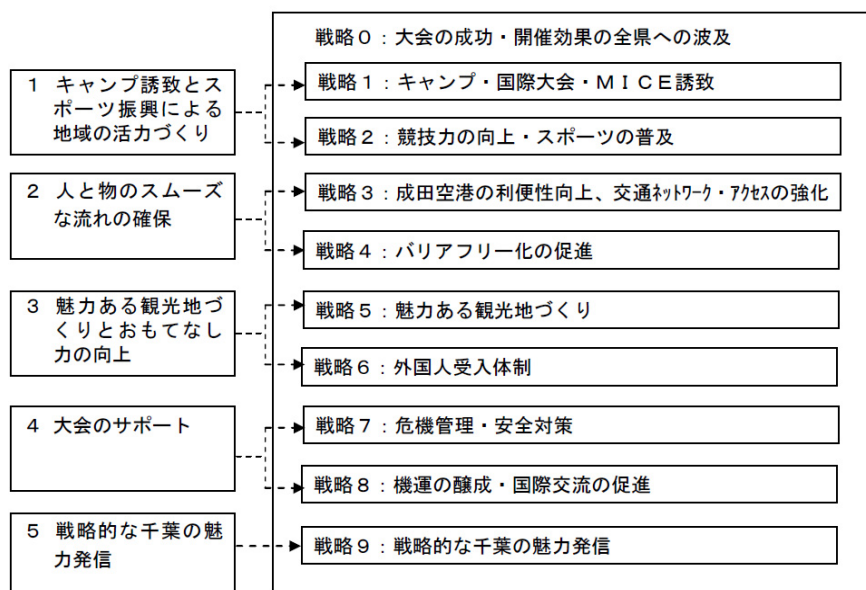


図 2020 年東京オリンピック・パラリンピックに向けた千葉県戦略の構成

### 3) 成田市の計画

#### ①成田市総合計画 NARITA みらいプラン

市政運営全般にわたる構想と計画である総合計画（成田市新総合計画。2006年（平成18年）3月策定）を、2016年（平成28年）3月に、「成田市総合計画 NARITA みらいプラン」として改訂しています。

序論・基本構想・基本計画からなりますが、序論で「スポーツツーリズムをめぐる本市の取組み」を整理しているほか、基本構想における目標の1つに「学び、文化を育て、スポーツを楽しむまちづくり」を挙げています。基本計画においては、スポーツの視点から「スポーツに親しめる環境をつくる」、観光振興の視点から「魅力ある国際性豊かな観光地づくりを推進する」という項目を設け、施策の方向性を示しています。

#### ②第2次成田市生涯スポーツマスタープラン

1999年度（平成11年度）に策定された計画を、2011年（平成23年）2月に改訂しています。市の生涯スポーツ振興に向けた基本指針としての役割をもっています。

プランの1つの目標である「スポーツで楽しもう～スポーツを楽しむ場の醸成～」において、スポーツイベントの誘致・開催、スポーツ情報システムの充実、ウォーキング・ジョギングコース等の整備等が位置づけられています。

#### ③成田市観光振興基本計画

市の観光振興に係る基本計画で2005年（平成17年）3月に策定され、2009年（平成21年）3月に改訂しました。現在、再改訂（成田市観光振興基本計画「成田市観光基本戦略」）に向けた作業が行われています。

#### ④成田市総合保健福祉計画

2009年（平成21年）3月に策定された計画を、2015年（平成27年）3月に改訂しています。

「健康づくり」、「いきがづくり」といった内容が、スポーツ振興と関わりをもっています。

## 第2章 成田市におけるスポーツツーリズムに関する現状

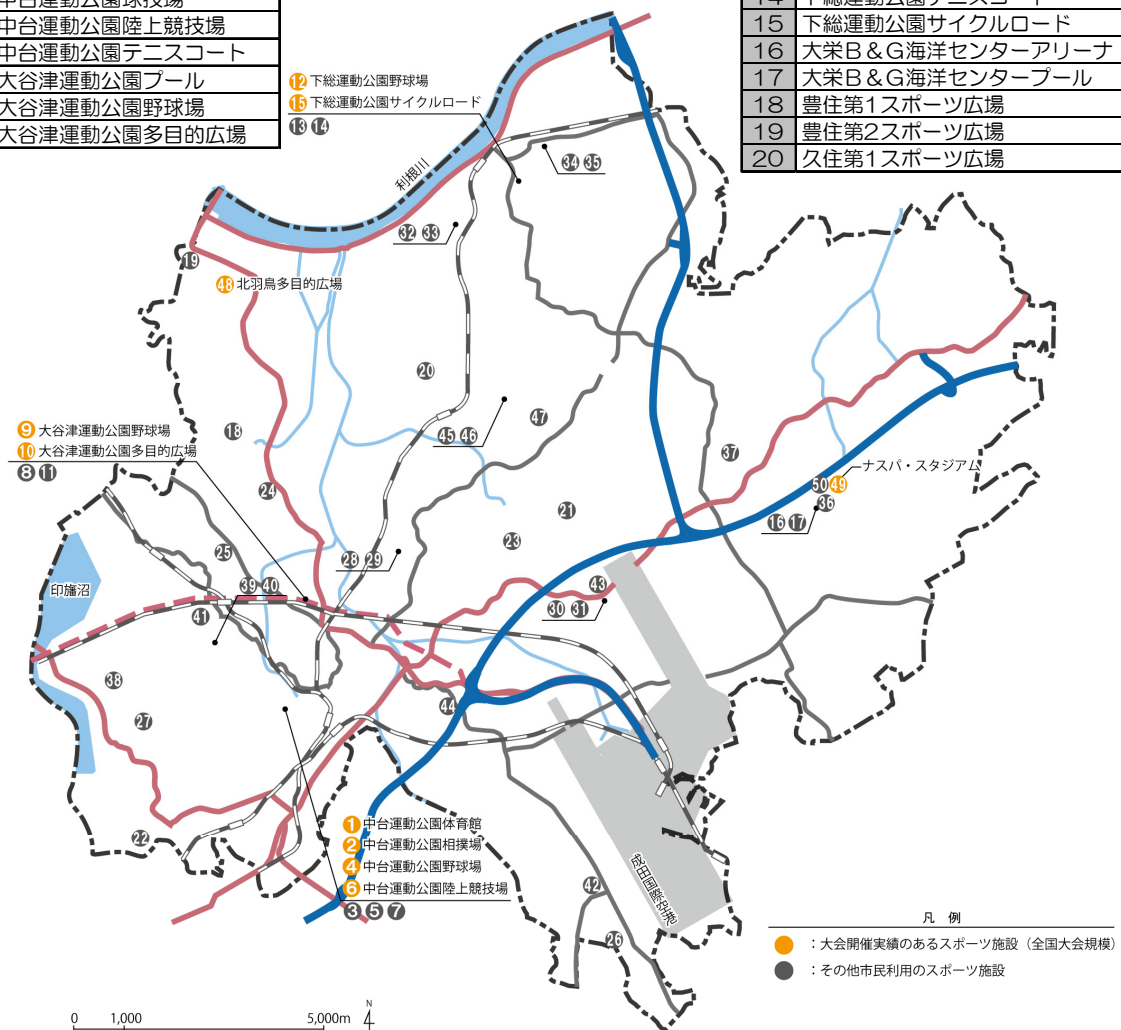
### (1) スポーツに関する現況

#### 1) 施設の立地状況

市内には公共スポーツ施設が50施設あります。市域の南西部に比較的集積しており、中でも中台運動公園は本市の中心拠点に近接しています。その他の施設は市域に点在しています。

1	中台運動公園体育館
2	中台運動公園相撲場
3	中台運動公園プール
4	中台運動公園野球場
5	中台運動公園球技場
6	中台運動公園陸上競技場
7	中台運動公園テニスコート
8	大谷津運動公園プール
9	大谷津運動公園野球場
10	大谷津運動公園多目的広場

11	大谷津運動公園テニスコート
12	下総運動公園野球場
13	下総運動公園運動広場
14	下総運動公園テニスコート
15	下総運動公園サイクルロード
16	大栄B&G海洋センターアリーナ
17	大栄B&G海洋センタープール
18	豊住第1スポーツ広場
19	豊住第2スポーツ広場
20	久住第1スポーツ広場



21	久住第2スポーツ広場
22	公津スポーツ広場
23	中郷スポーツ広場
24	八生第1スポーツ広場
25	八生第2スポーツ広場
26	遠山スポーツ広場
27	ニュータウンスポーツ広場
28	中郷運動施設中郷体育館
29	中郷運動施設中郷運動場
30	十倉三運動施設十倉三体育館

31	十倉三運動施設十倉三運動場
32	滑河運動施設滑河体育館
33	滑河運動施設滑河運動場
34	高岡運動施設高岡体育館
35	高岡運動施設高岡運動場
36	大栄運動場
37	久茂富第一公園テニスコート
38	印東体育館
39	神宮寺公園多目的広場
40	神宮寺公園内テニスコート

41	外小代公園内テニスコート
42	三里塚記念公園テニスコート
43	十倉三パークゴルフ場
44	成田クリーンヒル多目的広場
45	久住体育館
46	久住テニスコート
47	久住パークゴルフ場
48	北羽鳥多目的広場
49	ナスパ・スタジアム
50	大栄テニスコート

図 公共スポーツ施設分布図

### ①施設の機能・規模

陸上競技場をはじめ、体育館や相撲場など多くの大会開催実績のあるスポーツ施設を有し、運動公園として高い整備水準を持つ中台運動公園から、主に市民の身近なスポーツ活動の場として親しまれている整備水準のものまで、幅広い利用者への対応が可能となっています。

観客席があるなど集客が可能な施設は、中台運動公園体育館・野球場・プール・球技場・陸上競技場、大谷津運動公園野球場※、ナスパ・スタジアムです。集客可能規模は、大谷津運動公園野球場※の12,000名が最大であり、1,500名から1,000名程度の施設が中心となっており、大規模な大会を開催するには、集客における課題となっています。

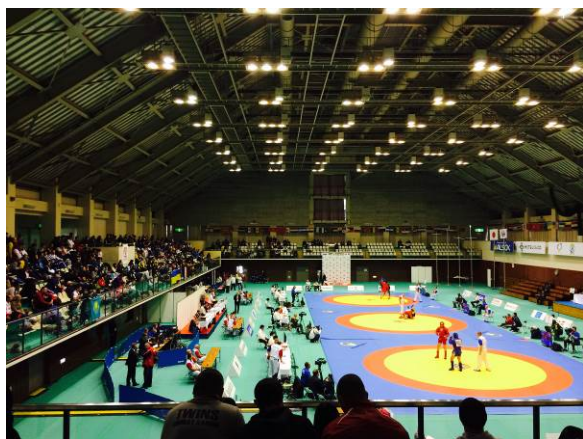
天然芝のフィールドがある施設は、中台運動公園陸上競技場のみとなっています。

駐車場は、全ての施設に備わっていますが、大会の規模や集中の度合いによって、台数の確保が困難となる施設もあり、施設運営における課題の1つとなっています。

なお、集客が可能な施設（中台運動公園、大谷津運動公園、ナスパ・スタジアム）は、大型車の駐車も可能であり、大会誘致やイベント開催による活用が期待できます。

その他の施設についても、市外からの来訪者が気軽にスポーツに親しめる場としての活用が考えられます。

※2019年（平成31年）3月19日まで閉鎖中。



中台運動公園体育館



中台運動公園球技場



中台運動公園陸上競技場



ナスパ・スタジアム



## ②運営状況

公共スポーツ施設の50施設のうち、36施設は指定管理者制度が導入されています。

一部の施設については、指定管理者の主催教室が行われており、市外からの参加も可能となっています。

施設の予約方法は、インターネットによる予約が可能な施設や、管理者へ電話での申し込みが必要な施設など、施設によって差が見られます。また、インターネットによる予約が可能であっても、初回は窓口での登録が必要であり、市外の利用者には不便な状況と言えます。

情報発信については、各施設の概要、開館・閉館日時や休館日、料金表、予約受付先等が市ホームページで確認できます。また、一部の施設については、指定管理者のホームページでイベントのスケジュールも含め、確認することができます。市内の施設のおよその情報を把握できる市民向けの情報発信になっていると言えます。

## ③利用状況

公共スポーツ施設の過去5年間（2011年度（平成23年度）から2015年度（平成27年度））の年間利用者数を見ると、市全体では増加傾向にあります。

各施設の年間利用者数を見ると、体育館では中台運動公園体育館が突出して多く、毎年10万人を超えている状況にあります。また、野球場ではナスパ・スタジアムの利用者数が最も多く、多目的広場ではニュータウンスポーツ広場と北羽鳥多目的広場が多くなっています。

市外利用の状況は、施設管理者へのアンケート結果によると、市外利用が3割以上あるのは9施設でした。その内、下総運動公園サイクルロード、大栄運動場、北羽鳥多目的広場、ナスパ・スタジアムは5割以上、下総運動公園運動広場は5割程度、中台運動公園体育館、中台運動公園陸上競技場、大栄B&G海洋センターアリーナは4割程度となっています。

各施設の利用形態（市民利用、大会開催、合宿・講習会等）は、施設管理者へのアンケート結果によると、中台運動公園体育館、中台運動公園球技場、中台運動公園陸上競技場、北羽鳥多目的広場、ナスパ・スタジアムの5施設は大会開催が全体の7割以上を占めています。



#### ④交通アクセス

大会やイベント開催にあたっては、交通アクセスも重要な要素です。本市における集客が可能な3施設は、公共交通機関によるアクセスは可能ですが、ナスパ・スタジアムは公共交通機関のサービス水準（上り、下りともに1日1～2本程度）から自動車によるアクセスが中心となっています。

道路上の案内標識は、ナスパ・スタジアムへの誘導サインが3箇所設置されていますが、中台運動公園及び大谷津運動公園への誘導サインは設置されていません。

表 集客が可能な3施設へのアクセス

施設名	施設へのアクセス
中台運動公園	JR成田駅及び京成成田駅より徒歩
大谷津運動公園	JR成田駅西口からバス利用
ナスパ・スタジアム	京成成田駅中央口からバス利用

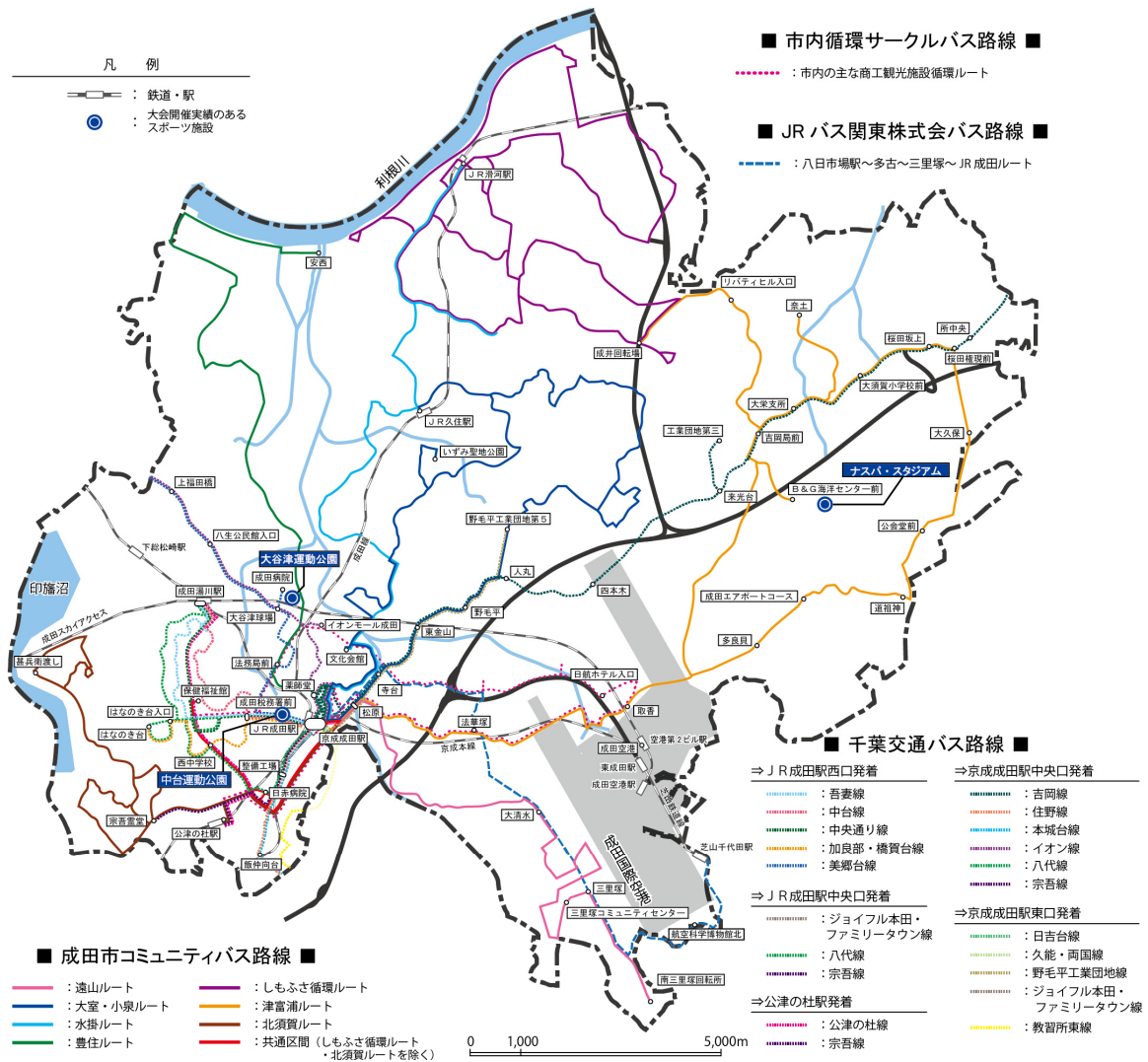


図 公共交通網と施設分布図

### ⑤スポーツツーリズムを推進する上で連携が考えられる機能

スポーツツーリズムに力を入れる自治体が増える中、独自の付加価値を提供し他の自治体との差別化を図ることが重要であり、地域全体でスポーツツーリズムを支える仕組みが必要です。

今後、大会誘致やイベント開催などの受入れが拡大すると、市民利用の制限といった課題が顕在化する可能性があります。課題への対応策として、学校体育施設の活用が挙げられます。本市では市民の身近なスポーツ活動の施設として、市内の小・中学校の体育館、校庭を開放しています。

また、大規模なスポーツ大会・イベントの円滑な運営に向けて多数のボランティアを確保する必要があり、市内の高校生の活躍が期待されます。

2016年（平成28年）4月には市内に国際医療福祉大学の成田看護学部及び成田保健医療学部が開学し、さらに2017年（平成29年）4月には医学部新設が決定しています。また、隣接する印西市に立地する順天堂大学（スポーツ健康科学部）とは、健康づくり、スポーツ振興などの分野における連携協力に関する協定を締結しています。こうした大学との連携は、来訪者に科学的知見からの付加価値を提供する取組みへの発展が期待できます。

スポーツ参加者に対する安全対策として、医療サービスの提供が必要です。本市には診療科目に整形外科を含む病院及び診療所は15機関あり、市の南部及び西部に分布しています。また、国際医療福祉大学の医学部新設に伴い、今後市内に医学部附属病院の建設が予定されています。



図 連携機能分布図

（出典）国土数値情報 医療機関データ（国土交通省）

## 2) スポーツ活動

### ①市民のスポーツ活動

「第2次成田市生涯スポーツマスタープラン」の策定後5年となる2014年度（平成26年度）に中間見直しを目的に実施したアンケート調査及び同年度に実施した成田市のスポーツまちづくりに関するアンケート調査の結果から、市民の「するスポーツ」「観るスポーツ」「支えるスポーツ」の状況を整理します。

#### ア. するスポーツの実態

16歳以上の現在行っているスポーツの頻度は、「行っていない」が約半数を占め、週1日以上スポーツの実施率は33.8%です。これは、2015年度（平成27年度）における成人の全国平均である40.4%（出典：「東京オリンピック・パラリンピックに関する世論調査（2015年度（平成27年度）」）に基づく文部科学省推計）を下回っています。

スポーツを行っていない人のスポーツを行わない理由として「時間がないから」、「機会がないから」、「年をとったから」等が挙げられています。

日ごろ行っているスポーツは、「ジョギング・ウォーキング・散歩」が最も多く、次いで「体操（ラジオ体操・美容体操など）」など、日常的に気軽に行うことのできるスポーツが市民に親しまれています。

これから行いたいスポーツは、前述の日ごろ行っているスポーツと同様に「ジョギング・ウォーキング・散歩」が最も多く、次いで「水泳」、「登山・ハイキング」、「ヨガ・ピラティス」などが挙げられています。

小中学生では、日ごろ行っているスポーツとして「サッカー」、「水泳」といった競技が含まれます。これから行いたいスポーツは、日ごろ行っているスポーツの上位以外の「スキー・スノーボード・スケート」、「テニス・ソフトテニス」が挙げられています。

表 日ごろ行っているスポーツ

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
16歳以上	ジョギング・ウォーキング・散歩 29.0%	体操（ラジオ体操・美容体操など） 10.4%	ゴルフ 9.0%	釣り 7.0%	スキー・スノーボード・スケート 6.3%
小中学生	サッカー 24.6%	水泳 23.7%	ジョギング・ウォーキング・散歩 17.7%	バスケットボール 13.8%	陸上競技 12.4%

表 これから行いたいスポーツ

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
16歳以上	ジョギング・ウォーキング・散歩 21.8%	水泳 14.8%	登山・ハイキング 13.9%	ヨガ・ピラティス 12.8%	体操（ラジオ体操・美容体操など） 10.9%
小中学生	スキー・スノーボード・スケート 29.9%	テニス・ソフトテニス 22.5%	ボウリング 19.8%	釣り 15.9%	卓球 14.7%

## イ. 観るスポーツの実態

市内で開催されているスポーツ行事の認知度は、「成田POPラン大会」が半数以上と最も多く、次いで「成田スポーツフェスティバル」となっています。参加したことのある行事も同様の傾向となっています。

今後観たいスポーツは「野球」が最も多く、「サッカー」、「陸上競技」が続いています。また、成田市を象徴するスポーツは、「陸上競技」が最も多く、次いで「野球」、「武道（柔道・剣道・相撲・弓道・空手道など）」が続いています。

小中学生では、今後観たいスポーツとして、前述の普段行っているスポーツと同様に「サッカー」が最も多くなっています。また、成田市を象徴するスポーツは、第1位の「陸上競技」、第2位の「野球」は16歳以上の結果と同順となっています。第3位から第5位までの「サッカー」、「武道（柔道・剣道・相撲・弓道・空手道など）」、「ゴルフ」についても、順位は前後しますが、16歳以上と同じスポーツが挙げられています。

表 観たいスポーツ

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
16歳以上	野球	サッカー	陸上競技	バレーボール	バスケットボール
	28.8%	25.8%	15.8%	15.3%	14.4%
小中学生	サッカー	テニス・ソフト テニス	野球	スキー・スノー ボード・スケート	バスケットボール
	27.3%	22.8%	21.9%	19.1%	14.9%

表 成田市を象徴するスポーツ

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
16歳以上	陸上競技	野球	武道（柔道・剣道・相撲・ 弓道・空手道など）	ゴルフ	サッカー
	21.8%	15.3%	14.2%	7.0%	6.0%
小中学生	陸上競技	野球	サッカー	武道（柔道・剣道・相撲・ 弓道・空手道など）	ゴルフ
	39.6%	28.3%	22.3%	17.0%	9.2%

## ウ. 支えるスポーツの実態

スポーツ行事の運営等への参加意向は、「あまり行いたいと思わない」と「まったく行いたいと思わない」を合わせると半数程度となっており、参加意向は低いと言えます。

スポーツ行事の運営等に参加したい人の参加したいスポーツ行事としては、「地域の行事」が最も多く、次いで「市の行事」となっています。

また、力を入れてほしいスポーツ交流は、「特にない」が最も多く、次いで「地域間の交流」、「国内の各種スポーツ団体との交流」が挙げられています。

## エ. 市民のスポーツに関する意向（重要度）

スポーツ活動を行うなかで重要とする項目については、「健康づくりについて学ぶ環境の充実」、「スポーツ施設の整備・充実」、「自然体験型スポーツの推進」を重要（重要あるいはやや重要）と考えている割合が高くなっています。

スポーツツーリズムに関連する「スポーツを観戦する機会」、「スポーツを通じた交流の促進」については、約半数の人が重要（重要あるいはやや重要）と回答しており、今後への期待が感じられます。

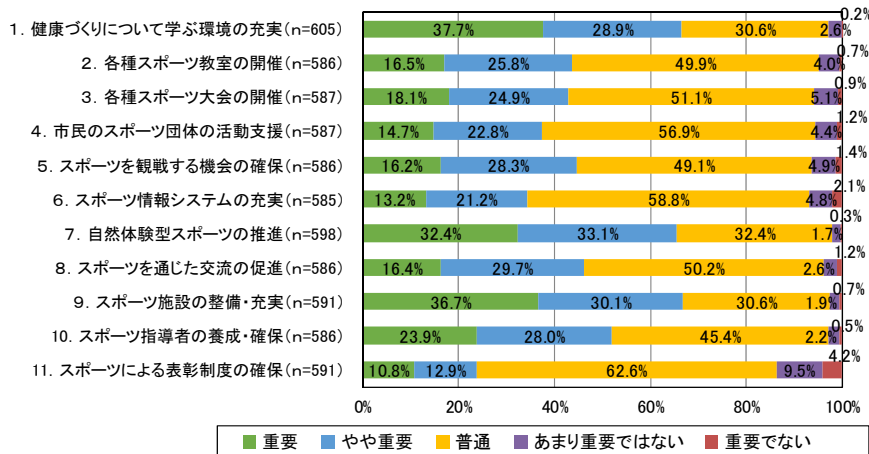


図 市民のスポーツに関する意向（重要度）

## ②市内スポーツ団体の活動

陸上競技や野球などの各専門競技団体のほか、地域スポーツ団体など、多様なスポーツ団体が活動しています。

2014年度（平成26年度）に実施した成田市スポーツまちづくりに関するアンケート調査の結果によると、団体の活動として力を入れていることは、「大会の開催」が最も多く、次いで「スポーツ教室」、「選手育成」が挙げられています。一方、「スポーツを通じた交流イベント」は重視されていない傾向にあります。

スポーツ団体間の連携や他産業との連携について、現在行っている団体は2割程度となっており、具体的な連携内容として「栄養指導」、「参加特典として地場産業商品の配布」等が挙げられています。

また、「今後、連携を強化したい」とする団体が約半数となっており、スポーツと他分野の多様な連携への期待が感じられます。



### 3) スポーツイベントの実績

本市は、市内に点在する充実したスポーツ関連施設を利用し、成田市や市民団体等の主催で毎年様々なスポーツ関連イベントが開催されています。個人で楽しめるイベントはもちろん、スポーツを通じて市民が交流できるイベントや、アスリートと交流できる教室や大会などのイベントも開催されています。

成田POPラン大会と成田エアポートツーデーマーチには市外からも多くの人々が参加しています。

また、全国・関東規模、さらには国際規模の競技大会が市内で毎年10大会前後開催されています。大会によっては、毎年本市で開催されているものもあります。



成田POPラン大会



成田エアポートツーデーマーチ



U15 全国 KWB 野球大会



バスケットボール日本リーグ成田大会

## (2) 観光をめぐる動向

### 1) 観光客の動向

#### ①観光客数の推移

本市の観光客数は、2011年（平成23年）は東日本大震災の影響で落ち込みましたが、2012年（平成24年）以降は回復し、増加傾向にあります。2014年（平成26年）に1,400万人を超え、2015年（平成27年）は1,470万人となっています。これは県内4位の数値です。

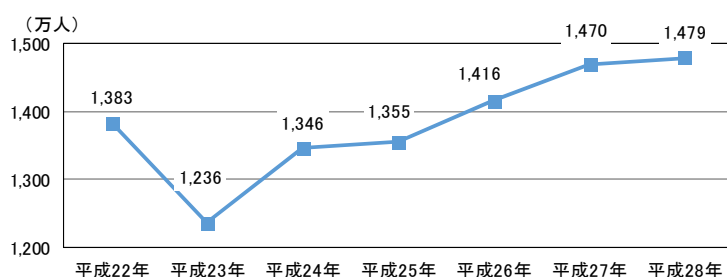


図 観光客数の推移

(出典) 観光プロモーション課

#### ②観光目的分類別観光客数

2015年（平成27年）の観光客総数約1,470万人のうち、社寺・仏閣や歴史的まち並みなどの「歴史・文化」の観光地点での観光客数が突出して多く、次いで「行祭事・イベント」、「スポーツ・レクリエーション」となっています。

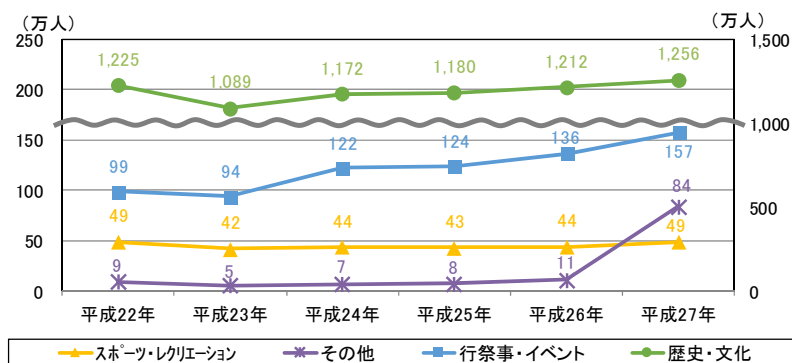


図 観光目的分類別観光客の推移

観光地点分類の内訳については下記参照。

表 観光目的分類の内訳

歴史・文化	史跡、城、神社・仏閣、庭園、歴史的まち並み、旧街道、博物館、美術館、記念・資料館、動・植物園、水族館、産業観光、歴史的建造物、その他歴史
スポーツ・レクリエーション	スポーツ・レクリエーション施設、スキー場、キャンプ場、釣り場、海水浴場、マリナー・ヨットハーバー、公園、レジャーランド・遊園地、テーマパーク、その他スポーツ・レクリエーション
行祭事・イベント	行祭事、花見、初詣、花火大会、郷土芸能、地域風俗、博覧会、コンサート、スポーツ観戦、映画祭、コンベンション・国際会議、他に分類されない行祭事・イベント
その他	他に分類されない観光地点

(出典) 千葉県観光入込調査報告書

### ③月別観光客数

2015年（平成27年）の本市を含む印旛地域における月別観光客数は、1月に訪れる人が約551万人と最も多く、次いで10月の約210万人、4月と11月の約208万人となっています。本市では1月は初詣、4月には太鼓祭、10月には弦まつり、11月には成田山公園紅葉まつりなどが開催されており、多くの観光客が訪れます。

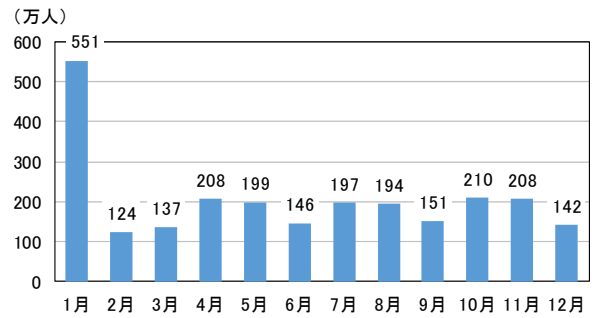


図 印旛地域の月別観光客数（2015年（平成27年））

（出典）平成27年千葉県観光入込調査報告書

### ④宿泊客数

2015年（平成27年）の観光客総数約1,470万人のうち、宿泊客数は約300万人となっており、宿泊客数は全体の約20%程度となっています。また、2010年（平成22年）からの推移を見ても、宿泊客数はどの年も全体の20%程度となっています。

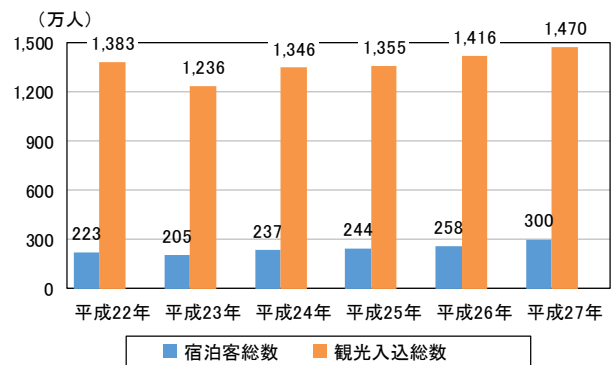


図 宿泊客数及び観光客数の推移

（出典）観光プロモーション課

### ⑤印旛地域の外国人宿泊客数

印旛地域（成田市、佐倉市、四街道市、八街市、印西市、白井市、富里市、酒々井町、栄町）の外国人宿泊客数は、2011年（平成23年）は東日本大震災の影響で落ち込みましたが、2012年（平成24年）以降は回復し、増加傾向にあります。

宿泊客の国・地域別の内訳は、中国が44.2%と最も多く、続いて、台湾が9.9%、北米が9.6%となっています。

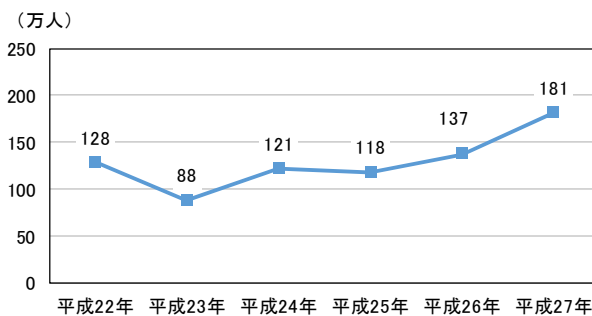


図 印旛地域の外国人宿泊客数

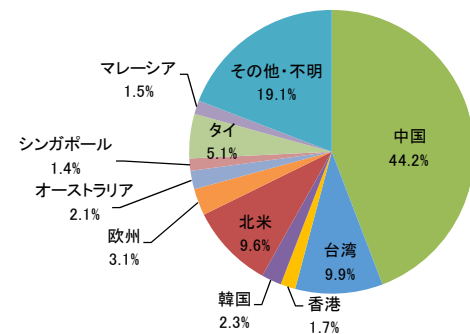


図 外国人宿泊客の国・地域別の内訳(県内)

（出典）千葉県観光入込調査報告書



## ⑥ゴルフ場入込客数

本市のゴルフ場入込客数は、2011年（平成23年）は東日本大震災の影響で落ち込みましたが、2014年（平成26年）以降は回復しています。国内のゴルフ需要が減少する中、外国人旅行者による増加によるものと考えられます。2015年（平成27年）は県内4位となっています。

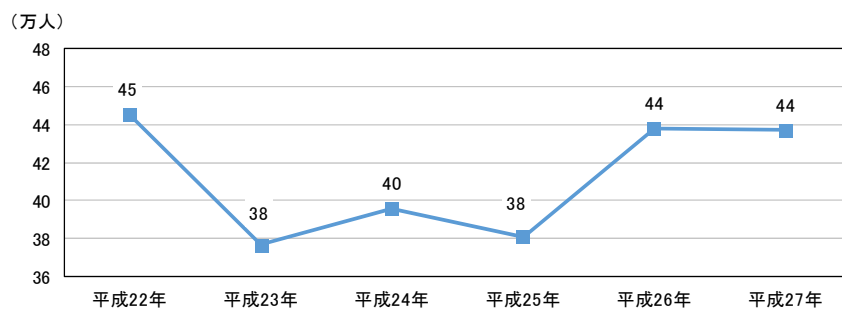


図 ゴルフ場入込客数の推移

(出典) 千葉県観光入込調査報告書

## 2) 施設の立地状況

### ①主要な観光施設

本市には、年間 1,000 万人もの人が訪れる「成田山新勝寺」をはじめ、様々な観光施設が存在しています。

上記の「成田山新勝寺」や、義民・佐倉宗吾が祀られていることから「宗吾霊堂」と呼ばれる「東勝寺」の他、様々な神社・寺院が点在しており、「成田山書道美術館」や「成田市文化芸術センター」などの文化施設もあります。

また、公園・スポーツ・レジャー施設として、様々な公園や森などが点在する他、県立自然公園に指定され、遊歩道が整備されている「印旛沼」や、「成田ゆめ牧場」や「坂田ヶ池総合公園」などのキャンプ場も点在し、市では公園や学校などを発着とするウォーキングコースも設定しています。

その他にも、多くの人々が訪れる施設として、日本の空の玄関口である「成田国際空港」、江戸時代の面影を色濃く残す「成田山表参道」、買い物に便利な「イオンモール成田」などが挙げられます。

施設の駐車場は、一部周辺の有料駐車場の利用等があるものの、一般車の駐車は概ね対応が可能となっています。大型車の駐車は、約7割の施設で対応可能となっています。

また、スマートフォンやタブレット端末向けの観光情報提供及び公衆無線 LAN サービス「アクセスフリー成田」の運用が開始されており、日本語、英語に対応しています。今後、簡体字中国語、繁体字中国語、韓国語に順次対応する予定です。



成田山新勝寺



成田市文化芸術センター



坂田ヶ池総合公園



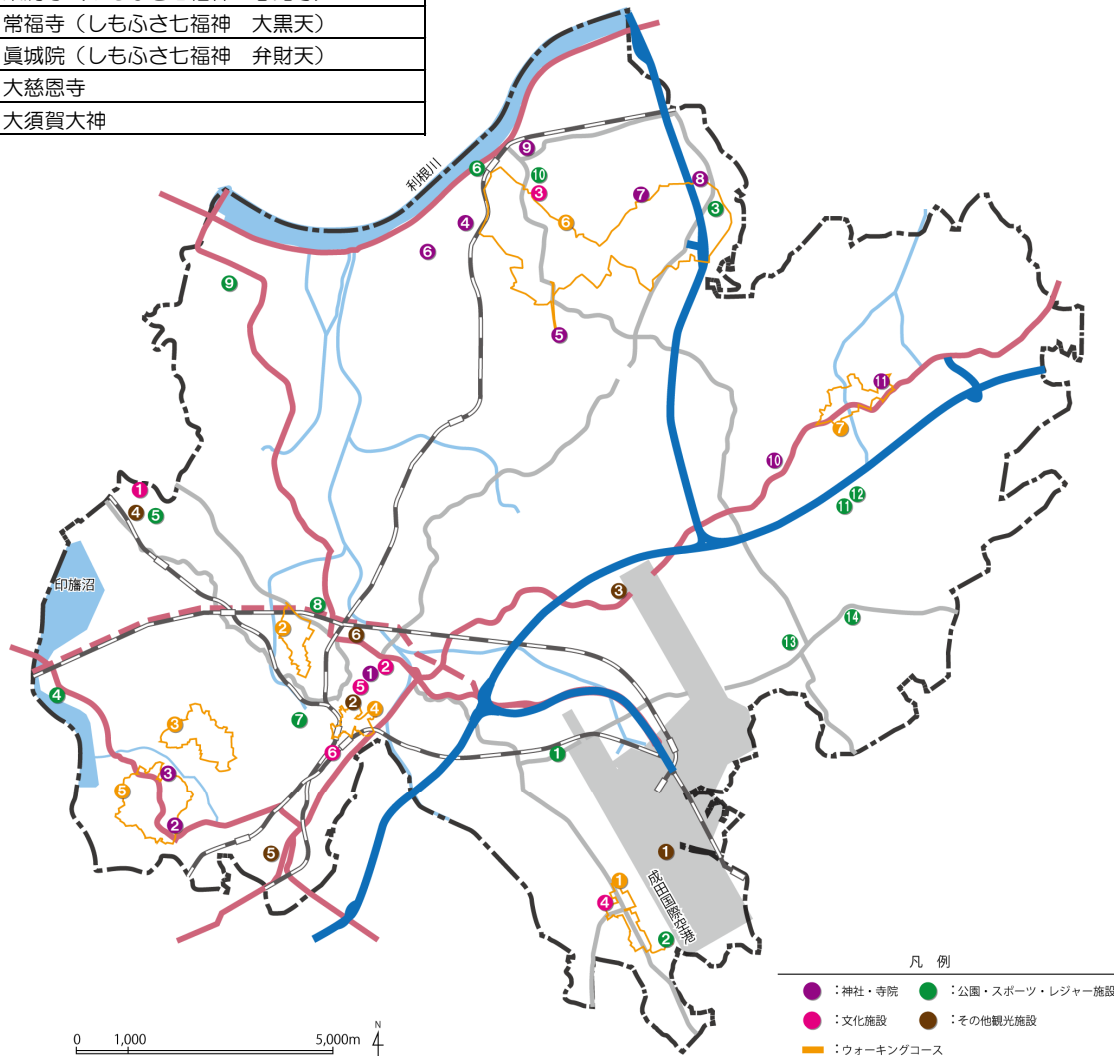
成田国際空港

【神社・寺院】

1	成田山新勝寺
2	宗吾霊堂（東勝寺）
3	麻賀多神社
4	滑河山龍正院（しもふさ七福神 毘沙門天）
5	乗願寺（しもふさ七福神 布袋尊）
6	昌福寺（しもふさ七福神 寿老人）
7	楽満寺（しもふさ七福神 恵比寿）
8	常福寺（しもふさ七福神 大黒天）
9	眞城院（しもふさ七福神 弁財天）
10	大慈恩寺
11	大須賀大神

【文化施設】

1	房総のむら
2	成田山書道美術館
3	下総歴史民俗資料館
4	三里塚御料牧場記念館
5	成田観光館
6	成田市文化芸術センター



【公園・スポーツ・レジャー施設】

1	成田市さくらの山・空の駅さくら館
2	三里塚さくらの丘
3	成田ゆめ牧場
4	甚兵衛公園
5	坂田ヶ池総合公園
6	下総利根宝船公園
7	中台運動公園
8	大谷津運動公園
9	北羽鳥多目的広場
10	下総運動公園（フレンドリーパーク）
11	大栄B&G海洋センター
12	ナスパ・スタジアム
13	グリーンウォーターパーク
14	運動の森自然公園 成田エアポートコース

【ウォーキングコース】

1	三里塚今・昔コース
2	美郷台探検コース
3	古墳と緑道のあるコース
4	裏道・細道再発見コース
5	宗吾の昔へタイムスリップコース
6	下総滑河古寺巡りコース
7	大栄の寺社探訪コース

【その他観光施設】

1	成田国際空港
2	成田山表参道
3	十余三 東雲の丘
4	成田の命泉 大和の湯
5	成田市公設地方卸売市場
6	イオンモール成田

図 主要な観光施設分布図

さらに、近隣市町にはわが国初の航空専門の博物館である芝山町の「航空科学博物館」、香取市の「佐原の町並み」や佐倉市の「国立歴史民俗博物館」、酒々井町の「酒々井プレミアム・アウトレット」、房総の伝統的な生活様式などを直接体験できる栄町の「房総のむら」などの観光施設があります。

また、2016年（平成28年）4月には文化庁が認定する日本遺産に「北総四都市江戸紀行・江戸を感じる北総の町並み（佐倉市・成田市・香取市・銚子市）」が認定されており、ストーリーを構成する文化財をはじめ歴史的資源を効果的に活用し、次世代への継承と地域の活性化及び観光振興が期待されます。



図 広域観光施設分布図

### (参考) 日本遺産について

「日本遺産」は、地域の歴史的魅力や特色を通じて、我が国の文化・伝統を語るストーリーを文化庁が認定するもので、魅力ある有形・無形の文化財群を、地域が主体となって総合的に整備・活用し、国内外に戦力的に発信することによって、地域の活性化を図ることを目的としています。

文化庁は、2020年度（平成32年度）までに、100件程度認定することを目標としており、これまで、2015年度（平成27年度）に18件、2016年度（平成28年度）に19件が認定されました。



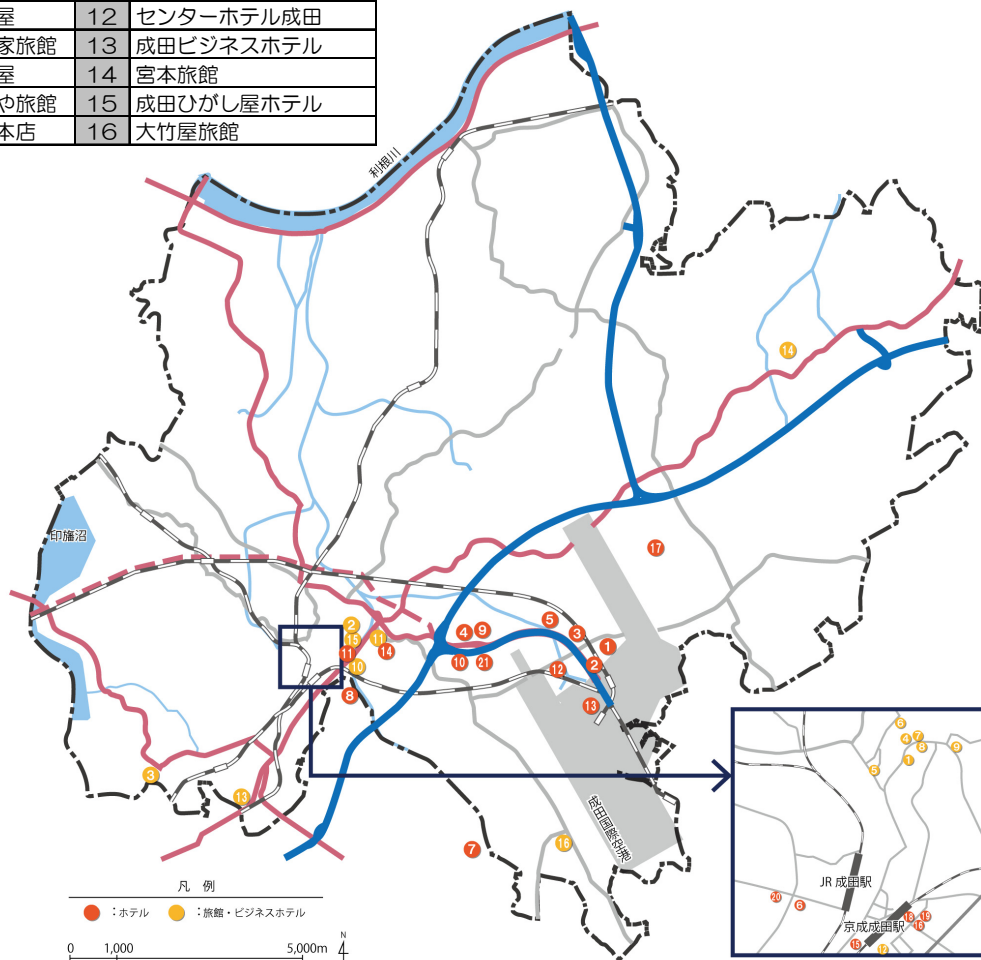
## ②宿泊施設

本市には、ホテルが 20 軒、旅館・ビジネスホテルが 16 軒立地しており、市内で約 8,000 室の供給が可能です。JR 成田駅・京成成田駅周辺や成田インターチェンジ周辺、成田国際空港周辺を中心に立地しており、市内北部にはほとんど立地していません。駅周辺には旅館・ビジネスホテルが多く、インターチェンジ及び空港周辺にはシティホテルなどの大規模なホテルが立地しています。

各宿泊施設において、公衆無線 LAN サービス「アクセスフリー成田」の利用が概ね可能です。多言語対応は宿泊施設によって異なる状況です。

### 【旅館・ビジネスホテル】

1	近江屋旅館	9	ビジネス旅館わたや
2	桐之家旅館	10	ビジネスホテル東魁
3	鷺田屋旅館	11	ビジネスホテルてら台
4	大黒屋	12	センターホテル成田
5	成毛家旅館	13	成田ビジネスホテル
6	成田屋	14	宮本旅館
7	ひしや旅館	15	成田ひがし屋ホテル
8	若松本店	16	大竹屋旅館



### 【ホテル】

1	東横イン成田空港	12	マロウドインターナショナルホテル成田
2	成田東武ホテルエアポート	13	成田エアポートレストハウス
3	ホテル日航成田	14	インターナショナルガーデンホテル成田
4	成田エクセルホテル東急	15	メルキュールホテル成田
5	ANAクラウンプラザホテル成田	16	コンフォートホテル成田
6	成田Uーシティホテル	17	ホテルスカイコート成田
7	ラディソンホテル成田（富里市）	18	アパホテル（京成成田駅前）
8	成田パークヒルズホテル	19	リッチモンドホテル成田
9	ヒルトン成田	20	アジアホテル成田
10	成田ゲートウェイホテル	21	成田ビューホテル
11	ザエディスターホテル成田		

図 宿泊施設分布図

### ③観光関連施設（飲食店・物販店）

市内には、約 970 の飲食店があり、日本料理店等の専門料理店が最も多く、次いで、酒場、ビヤホール、食堂、レストランが多くなっています（平成 24 年経済センサス - 活動調査 事業所に関する集計参考）。

専門料理店の代表格として、江戸時代から本市で愛されてきた「うなぎ」が挙げられます。店舗は成田山表参道に集中しているほか、成田国際空港方面や国道 464 号沿道を中心とした立地が見られます。

成田山表参道周辺の店舗では、公衆無線 LAN サービス「アクセスフリー成田」の利用が概ね可能となっています。多言語対応として、英語表記と写真掲載のメニューを用意している店舗も見られますが、店舗によって差があります。

物販店は、本市の土産品として名高い和菓子の「羊かん」や地下水と伝統の技術で造られる「日本酒」をはじめ、「漬物」や「せんべい」、「佃煮」、「乳製品」など、市内の豊かな自然に育まれてきた食を扱う店舗が見られ、主に成田山表参道を中心に店舗が立地しています。



うなぎ



羊かん



日本酒



漬物



せんべい



佃煮



乳製品

本市を代表する食

#### ④交通アクセス

代表的な観光施設は、公共交通機関によるアクセスが可能となっています。しかし、施設間を結ぶバス路線等の公共交通機関はほとんど見られず、市内の回遊性が課題となっています。

道路上の案内標識は、成田山及び宗吾霊堂への誘導サインは設置されていますが、その他の観光施設への誘導サインは設置されていない状況となっています。

歩行者を対象とした案内標識は、表参道、宗吾霊堂、JR 成田駅及び京成成田駅、成田市さくらの山・空の駅さくら館屋外、観光館屋外に設置されています。

表 施設へのアクセス

施設名	施設へのアクセス
成田山新勝寺・表参道	JR成田駅及び京成成田駅より徒歩
宗吾霊堂（東勝寺）	京成宗吾参道駅より徒歩
成田市さくらの山・空の駅さくら館	JR 成田駅参道口からバス利用
三里塚さくらの丘	JR 成田駅参道口からバス利用
十余三 東雲の丘	京成成田駅中央口からバス利用

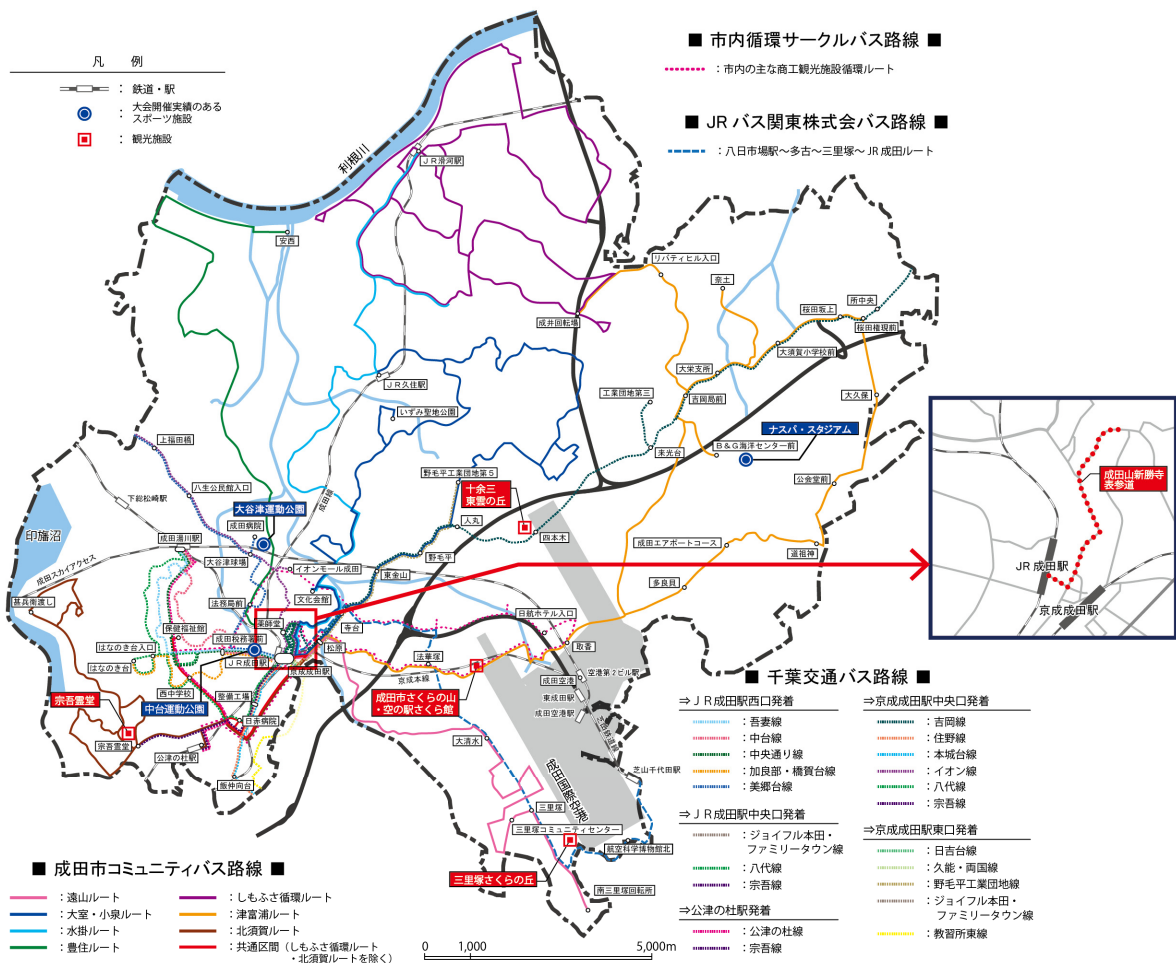


図 公共交通網と施設分布図

### 3) 観光行事

本市では、成田山新勝寺での「初詣」をはじめ、四季を通じて様々な行祭事・イベントが開催されています。特に、集客が期待される行事として、「初詣」、「成田太鼓祭」、「成田祇園祭」、「成田伝統芸能まつり」、「NARITA 花火大会 in 印旛沼」、「成田弦まつり」が挙げられます。

表 行事一覧

開催月	行事名
1月	成田山新勝寺 初詣
2月	成田の梅まつり
4月	成田太鼓祭
5月	成田山平和大塔まつり奉納総踊り
6月	宗吾霊堂紫陽花まつり
7月	成田祇園祭
8月	成田うなぎ祭り
9月	成田伝統芸能まつり
10月	NARITA 花火大会 in 印旛沼
10月	成田弦まつり
11月	成田山公園紅葉まつり

### 4) 情報発信

観光情報に関する発信は、パンフレットやWEBサイトが中心となっています。また、本市のプロモーションに関する発信は、メディア活用やイベント開催、観光キャラクターの活用など幅広い手段で行われています。

パンフレットやWEBサイトの一部は多言語対応となっており、海外に向けたプロモーション活動も実施しています。

観光客などの来訪者は、来訪を計画する段階から目的地に向かう移動中、目的地に到着してからといった一連の行動において、必要に応じて観光情報を入手します。こうした来訪者に対して、情報が必要な場面を想定し、それに応じて必要な情報を適切な手段・手法で提供することが求められます。



なりた旅帖



駅前案内所



### (3) 関連組織の概要

近年、大会や合宿等の企画・運営を総合的に推進・マネジメントする地域プラットフォーム組織を立ち上げる事例が見られます。こうした組織を整備することにより、スポーツツーリズムに関する取組みにおける、効果的な展開を手助けすることが期待されます。今後、実行委員会等の組織立ち上げ等の検討や、関連団体・企業との連携体制の構築を図ることが求められます。

スポーツツーリズム推進に向けて、以下に示す関連組織との連携や協力が期待されます。

表 関連組織

市関連部門			スポーツ関連団体			観光関連団体・企業										
企画政策課	生涯スポーツ課	観光プロモーション課	一般社団法人成田市体育協会	成田市スポーツ少年団	成田市スポーツ推進委員連絡協議会	成田市レクリエーション協会	一般社団法人成田市観光協会	成田商工会議所	成田市国際交流協会	成田国際空港株式会社	成田市観光みやげ商組合	成田飲食店組合	成田旅館ホテル組合	成田地区ホテル業協会	成田市農業協同組合	交通事業者（5事業者、1連合会）

（平成 29 年 3 月現在）

本市では、これまでに多くの各種スポーツ大会の開催や合宿の誘致を行ってきましたが、大会や合宿誘致の企画や運営、施設の予約などについては、市が積極的に関与する場合や競技団体が通常の施設使用予約によって会場を確保する場合など様々です。

大会等の企画・運営にあたっては、選手や大会関係者への宿泊先の確保や、観戦者への宿泊施設の情報提供、大会等の開催会場となる競技場、練習会場となるグラウンドや体育館等の予約や使用契約の締結等が必要となりますが、現在これらの情報提供や窓口は従来の枠組みの中で役割分担されています。

このように、現状では市関連部門が効果的に連携しているとは言い難い状況です。

## 1) スポーツ関連

本市には、スポーツや健康づくりに関する体育団体・組織が4つあり、各団体・組織の目的や活動内容等は以下のとおりです。

表 市内のスポーツ関連団体・組織

団体	目的	構成	具体的な活動内容
一般社団法人成田市体育協会	成田市における体育・スポーツ団体を統括し、これを代表する団体であって、市民の健康なこころと体を育むとともに、明るく豊かな成田市のまちづくりに寄与するスポーツの普及・振興に関する事業を行うことを目的とする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・専門競技 35 競技（陸上競技、野球など）</li> <li>・地域団体 15 団体（豊住地区体育協会など）</li> <li>・成田市スポーツ少年団</li> </ul>	市民スポーツの普及・振興事業／加盟団体が行うスポーツ大会、講習会等の行事に対する共催・後援／千葉県民体育大会、千葉県東部五市体育大会への選手団派遣及び事業を通しての加盟団体の組織強化／成田市等から受託するスポーツ振興事業／スポーツ指導者の養成及びスポーツに関する研究・宣伝・啓発並びに指導／優秀選手・団体及び功労者等に対する表彰／目的達成のために必要な事業
成田市スポーツ少年団	少年スポーツの振興と団体活動の活性化を図り、地域の青少年の育成に寄与することを目的とする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・専門競技 36 団体（軟式野球、ミニバスケットボールなど）</li> <li>・団員が 1,180 名</li> <li>・指導者が 557 名</li> </ul>	学校の校庭・体育館、地域のスポーツ広場でスポーツに親しんで練習を重ね、市交流大会の開催や県交流大会に参加／指導者の育成として、講習会や研修会事業を計画的に実施
成田市スポーツ推進委員連絡協議会	スポーツ推進委員相互の協力体制を確立して、資質の向上を図り、もって市民スポーツの発展に寄与することを目的とする。	・成田市スポーツ推進委員 38 名	市民のスポーツ推進のための事業実施に係る連絡調整／市民が行うスポーツの実技指導／市民のスポーツ推進のための指導及び助言／市民のスポーツ活動促進のための組織育成／学校、公民館等の教育機関その他行政機関の行うスポーツに関する行事又は事業への協力／スポーツ団体その他の団体の行うスポーツに関する行事又は事業への協力／市民に対し、スポーツについての理解を深めること
成田市レクリエーション協会	市民の余暇生活を充実するため、レクリエーションの総合的な普及振興をはかり、もって市民の心身の健全な発達と、明るく豊かな市民生活の形成に資することを目的とする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・7 団体（フォークダンス、ユニカール、ペタンクなど）</li> </ul>	各種大会・教室の開催／指導者の育成及び活用

## 2) 観光関連

観光は、ホテル、レジャー施設、航空、鉄道、飲食のみならず、農林水産、小売等の多くの産業が関係する裾野の広い総合産業であり、多産業間にわたり、効果的な連携が求められます。

本市の主な観光関連団体の目的や活動内容等は以下のとおりです。

表 市内の主な観光関連団体・組織

団体	目的	構成	具体的な活動内容
一般社団法人成田市観光協会	入込客数の拡大と年間を通しての安定的集客、来訪者を満足させる感動や癒しをもたらす観光地づくりを目的とする。	・加盟 450 社	各種催事の企画と運営／新しい観光コンテンツの開発／季節の花々による景観整備運動／共同販促プロモーションの企画運営／集客拡大プロモーション／公式ホームページ「FEEL 成田」の運営／WiFi ネットワークサービス「アクセスフリー成田」の提供／成田国際空港との連携、成田観光館及び内観光案内所の運営
成田商工会議所	地区内商工業の総合的な改善発達を図り、あわせて社会一般の福祉の増進に寄与することを使命としている。	・一般事業所 ・特定商工業者	総合振興事業／技術・技能普及事業／商業振興事業／工業振興事業／労働福祉対策事業／観光振興事業／調査広報情報事業／環境対策事業／組織運営対策事業／金融税務対策事業／国際交流等事業／法定台帳作成運用管理事業
成田市国際交流協会	成田市が国際化時代をリードする都市を目指すなかで、市民と外国人の相互理解と諸外国の都市との交流を市民の手で支援することを目的とする。	・個人会員 415 名 ・学生会員 18 名 ・団体会員 24 団体	友好・姉妹都市との交流／在住外国人との交流／イベントの開催／語学・ホストファミリーボランティア／他団体の助成事業
成田国際空港株式会社	成田国際空港の設置及び管理を効率的に行うこと等により、航空輸送の利用者の利便の向上を図り、もって航空の総合的な発展に資するとともに、我が国の産業、観光等の国際競争力の強化に寄与することを目的とする。	経営企画部門、共生・用地部門、営業部門、空港運用部門、整備部門、財務部門、管理部門	成田国際空港の設置及び管理／事務所、店舗その他の成田国際空港を利用する者の利便に資するために成田国際空港の敷地内に建設することが適当であると認められる施設の建設及び管理／各事業に附帯する事業／目的を達成するために必要な事業等

### 3) ボランティア活動関連

スポーツを通じ、国内外から多くの人に本市を訪れてもらうためには、オール成田による「おもてなし」の環境づくりの推進が求められます。サッカーワールドカップ大会の日韓共催における合宿地等の先進事例を見ると、地域や市民と連携した国際的なおもてなしが実践されています。

本市におけるスポーツツーリズムについても、様々な主体が参加して市全体のホスピタリティの充実を図ることが重要であり、各種ボランティアの確保や育成に努める必要があります。

また、学校との連携により、青少年の育成が期待されます。2016年（平成28年）4月に市内に国際医療福祉大学が開学（成田看護学部、成田保健医療学部）し、2017年（平成29年）4月には医学部の新設が決まっており、さらに今後、医学部附属病院など関連施設の併設が予定されています。

表 スポーツツーリズムに関連するボランティア活動団体

団体	概要
成田ボランティアガイドの会	「成田市街づくりへの市民参加」をモットーに、「成田山新勝寺」、「宗吾霊堂（鳴鐘山東勝寺）」及び成田市周辺の名所・旧跡の案内を行う。
成田市国際交流協会	協会の語学ボランティアに登録して、友好・姉妹都市との交流、行事での通訳や案内、文書の翻訳など様々な場面で協力をを行う。その他、協会の関連事業だけではなく、市や学校など主に公的機関からの依頼で通訳などを行う場合もある。
NPO法人成田空港ボランティア・スカイレッツ	1998年（平成10年）の長野冬季オリンピック開催時の千葉県在住ボランティア登録者により結成。成田国際空港を活動拠点とし、選手や関係者が無事に次の目的地に移動できるようにサポートしている。2010年（平成22年）に法人格を取得し、世界大会などのスポーツイベントのほか、APEC（アジア太平洋経済協力）首脳会議などのスポーツ以外の国際会議時でも活動している。

（出典）千葉県ホームページ、成田市国際交流協会ホームページ、

「スポーツボランティア団体の活動に関する調査」（笹川スポーツ財団）2012年（平成24年）3月

## 第3章 関連団体等の意向等

### (1) 市内関連団体の意向

#### 1) アンケート調査

スポーツや観光に関連する市内団体を対象に、スポーツツーリズムに関するアンケート調査を実施しました。

##### ①スポーツツーリズム推進への意向

スポーツツーリズムの推進に取り組むべきと回答した団体は、8割以上となっており、多くのスポーツ及び観光関連団体はスポーツツーリズムを推進する必要性を感じています。

そのため、行政として積極的にスポーツツーリズムの推進に取り組むとともに、関連団体との連携・協力のための体制構築が期待されます。

スポーツツーリズムを推進するにあたって必要と考える取組みとしては、「施設整備」が最も多く、次いで「財政的な支援」、「人的な支援」となっています。

スポーツツーリズム推進のために、施設整備を進めることが期待されています。

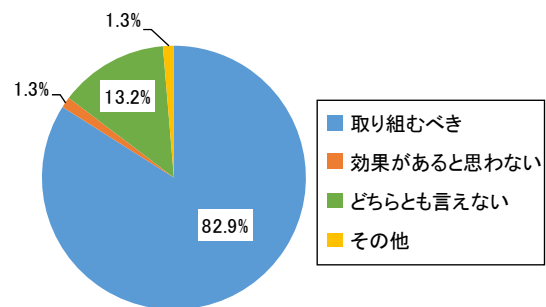


図 スポーツツーリズム推進への意向

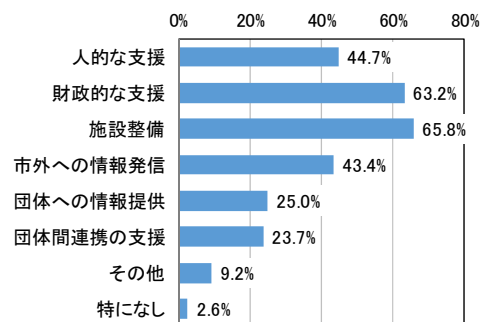


図 必要と考える取組み

#### 必要と考える取組みについての具体的な意見（主な意見）

- 国内外の大会を開催するための施設の整備。
- 施設の案内や利用方法、体験等のPRをする。
- 中規模大会の開催。スポーツイベントの共同開催。前泊、後泊などを含める大会の開催。
- スポーツ合宿に対する助成。
- 大会運営・開催に関する、市内外への情報発信。
- ボランティア募集など広報を通じての情報周知。関係機関だけでなく民間団体とも共有して、連携のとれたおもてなしができる。
- 市民へのスポーツツーリズムの理解向上を図る試み。



## ②スポーツツーリズムに関する取組み状況

スポーツツーリズムに関する取組みを実施している団体は約 43%となっており、様々な大会・イベントの誘致や市外団体とのスポーツによる交流、観戦客への商品開発など、各団体が独自にスポーツツーリズムに関する多様な取組みを実施しています。

しかし、回答団体の過半はスポーツツーリズムに関する取組みを実施していません。

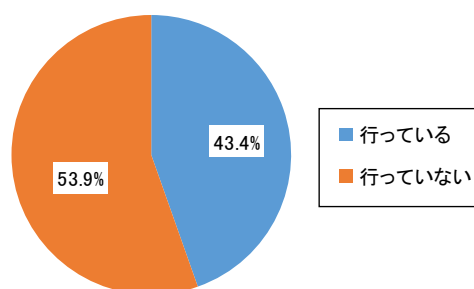


図 スポーツツーリズムに関する取組み

スポーツツーリズムに関する取組みを既に実施している関連団体は、スポーツツーリズムへの経験やネットワークを有していることから、主体的にスポーツツーリズムを推進するキーパーソンとなり得ます。取組みを行っていない関連団体には、協力・連携の可能性など、意向を確認する必要があります。

### 実施したスポーツツーリズムに関する取組みについての意見（主な意見）

- 全ての大会をオープン化して、近隣市町村との親睦、交流を図り、活性化を目指している。
- ソフトボール全日本選手権、バスケットボールWBL（毎年開催）、サッカー日韓交流（隔年主催）。
- 知的障がい者を対象とした競技の県大会を開催。県内各地より26チーム程が参加し、発表と交流、更には市民をはじめ多くのボランティアが参加。
- 関東規模の大会を開催し、市内ホテルで、選手、役員等の懇親会を開催（170名位）。その際、体育館ロビーに土産店を2時間設置したところ、売上げが良かった。
- 日本代表合宿への協力、日本代表チームの小学校訪問及び市内観光の企画運営。市民団体のスポーツ合宿への協力。
- 市外から参加する選手の宿泊施設の紹介や成田市の観光案内をした。
- 送迎付宿泊プランの造成、スポーツ観戦ツアー、観戦客の輸送などの実施。
- 各種スポーツ大会の広告協賛金の提供。各施設の紹介、手続きの説明など。
- スポーツイベント参加者に対する割引の提供。
- スポーツ合宿の企画実施、受入れ。部活動における合同練習、合宿。
- トップチーム（ナショナルチーム含む）のプレキャンプやトレーニングキャンプの受入れ、県や市町村との連携、競技大会やスポーツイベントの運営支援、スポーツツーリズム研究。
- 市内への宿泊を伴う、市外利用者団体、合宿利用者団体等へは予約時便宜を計っている。
- 本校が中心となって、成田市で練習会を開き、全国から参加校が集い、試合のみならず、新勝寺に必勝祈願に行き守り札を配る。また、各種大会での吹奏楽部の演奏等、おもてなしをした。この様子は各メディアにも取り上げられた。

### ③実施予定、または実施したいスポーツツーリズムに関する取組み

今後、実施予定、または実施したいスポーツツーリズムに関する取組みについての意見としては、全国大会や2日間の大会の開催、合宿等の支援、トップアスリートのプレーを見る機会の創出、宿泊プランの造成などがありました。

これらの意見は、今後関連団体と協力・連携しながら、実施に向けた検討を行える可能性が高いスポーツツーリズムの取組みであると考えられます。

また、これらの取組みを実施する上での課題としては、施設不足、人材不足、費用負担、受入れ体制の不備、外国人への対応などの意見がありました。

#### 実施予定、または実施したいスポーツツーリズムに関する取組みについての意見（主な意見）

- 全日本クラス、全国大会の開催。
- オープン大会の開催。充実している土産物を魅力の1つにしたい。
- 土、日、2日間の大会の開催。地元の宿泊施設を巻き込む。
- 日本代表合宿サポート。市外の競技団体へのスポーツ施設や宿泊の紹介。
- 実施している事業の継続・発展、障がい者スポーツに関連する事業。
- 子どもたちにトップアスリートやプロ選手の本物のプレーを見せる機会の創出。
- スポーツ合宿者への宿泊提供、市主催のスポーツ大会との宿泊プラン造成。
- スポーツイベントに関連した宿泊パッケージの開発（市内最大のフィットネスジム、プールの利用やレストラン等を組みこんだ宿泊パッケージ）。
- 外国人に対する特別料金の設定。
- 姉妹都市間でのスポーツ交流の推進。
- スポーツイベントのPR（チラシ・ポスターの掲示、ホームページへの掲載）。
- 北総エリアにおけるサイクルツーリズム事業の推進。
- 空港を活用した国内外からの利用者の受入れ。

#### スポーツツーリズムに関する取組みを実施する上での課題についての意見（主な意見）

- 特定の競技を行うためのスポーツ施設がない。合宿施設がない。
- スタッフ不足、グラウンド確保。受入れができる施設利用状況へのシフト。
- 大会にかかる費用等の捻出。財政的負担。財源の確保。
- 受入れ側のレベルの格差。あまりにも選手レベルが上がると、委縮してしまう。
- 大会の運営主体は国の組織委員会であり、行政側が窓口となり情報入手をするしかない。
- 集客。成田市と連携をしていきたい。
- 宿泊施設と会場への移手段、公共交通機関の整備等。交通機関の充実。
- 行政との連携及び地域協力、道路等使用許可に関する調整、環境整備。
- ベットサイズやバリアフリー。
- 海外利用者との文化の違い。

#### ④体制づくりへの参画意向

スポーツツーリズム推進に関する取り組みへの参画については、「推進協議会等などに参加したい」が約 34%と最も多く、次いで「当日ボランティアで協力したい」、「企画・運営など主体的な役割を担いたい」となっています。

一方で、回答者の約 25%はスポーツツーリズム推進に関する取り組みへの参画には「協力は難しい」としており、主な理由として、「具体的な取り組みが不明」や「人材不足」、「予算不足」などが挙げられています。

スポーツツーリズムへの参画は、いろいろな形態があるため、関連団体が協力・連携しやすい環境を整える必要があります。

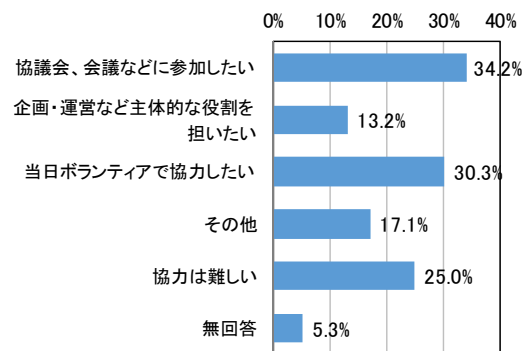


図 スポーツツーリズムへの参画意向

#### 協力が難しい理由や参画するための条件についての意見（主な意見）

- きちんとした立案、説明、公平なプランがあれば全面的に協力する。
- 具体的な内容が分かれば、協力ができるかもしれない。
- 人手、時間的に難しい。
- 団体メンバーの高齢化のため。スタッフの不足（若い年代が集る機会がない）。
- 具体的な内容がわからないので回答が難しい。
- 組織上及び人的対応が難しいと考えている。
- 利用希望や時期が重なりやすく、人的、予算的余裕があるものではないため。
- メンバーはその他の団体（消防、PTA、子供会）などにも所属しており忙しい。
- 当団体の活動内容、団体構成がスポーツツーリズムに合致しない。
- 他の一般的なスポーツ施設とは管理形態が異なることから、協力は難しい。

## 2) 市内関連団体へのヒアリング調査

アンケート調査において追加のヒアリング調査が可能と回答があり、かつ今までの取り組み実績等を踏まえて、抽出した市内関連団体へヒアリング調査を実施しました。

### ①成田市におけるスポーツ・観光の特徴

#### ア. 成田市特性、地域資源

本市の強みとして、国際空港や成田山新勝寺などの観光スポット、充実したスポーツ施設がある、都心から近い、外資系の宿泊施設が多いなどを挙げられており、本市はスポーツツーリズムの推進にあたり恵まれた都市と言えます。

一方で、本市の弱みとしては、市内へのアクセスが不十分、スポーツのイメージがない、大人数での宿泊施設の確保が困難、外貨両替箇所の不足、多言語化等への取り組みの遅れなどが挙げられています。

#### 意見

- 空港、国内LCC、都心へのアクセスの利便性、新勝寺、周辺の自然などが本市の優位性。平日でも観光客がいる地域。県内での交通の利便性が良いことから関東圏の大会も多い。
- 成田国際空港と東京の通過点というイメージが強く、市内及び地域資源までのアクセスの向上が課題である。
- 本市にスポーツのイメージがない。また、市内でスポーツ活動をあまり見かけない。
- 外資系の宿泊施設など、語学対応も問題の無い宿泊施設が他地域に比べて豊富である。ムスリム、ベジタリアンなど母国の食事に近いものを提供したり、比較的簡単にフロア整備ができることが強みである。
- 本市は宿泊部屋数が多いが、大人数の宿泊を確保することが難しい。
- 外貨を両替できる郵便局や一部の銀行、コンビニなどが利用できなくなると、成田駅周辺に両替できるお店がないことが課題である。
- 情報発信が弱い。歴史文化財案内表示は一部のみで足りない。
- 市内の店舗においては、メニューの多言語・料金の記載、クレジットカード利用可能の表記がない。

#### イ. スポーツツーリズムに活用できる資源

本市のスポーツツーリズムに活用できる資源として、ゴルフ場や自然、大学が挙げられています。これらの地域資源の活用について、関連団体等と調整を行う必要があります。

#### 意見

- ゴルフ場。本市にはゴルフ場がたくさんあり、ゴルフをする人は宿泊を伴うことも多い。
- 自然。市内でトレッキングを実施している。専用コースで自然を感じられるなどの特徴があれば人気になる。また、成田山新勝寺や周辺の成田山公園などにも自然があり、散策できる。また、空港の近くにも遊歩道があるので、散策場所として利用できるのでは

ないか。

- 大学。施設の提供や専門的な知識、国内各協会とのネットワーク、学生などの多様な人材を有している。

## ②スポーツツーリズムを推進するために必要な取組み

### ア. スポーツツーリズムの取組み

2020年東京オリンピック・パラリンピックの開催決定等を契機として、スポーツツーリズムの取組みを既に行っている関連団体等もあります。また、ゴルフツーリズムや医療ツーリズムなど新しい取組みも挙げられており、地域資源を活用した取組み等の検討が必要です。

### 意見

- 今まで店舗への依頼はイベント掲示物のみであった。あとは、各店舗でできること（割引や粗品提供など）を行っている。
- 「トランジット協議会」の取組みとして、成田国際空港を利用するトランジット旅客に空港周辺の観光モデルコースの情報を提供している。モデルコースの情報提供は、空港周辺に宿泊する外国人旅行者にも広げていく予定。
- サービスの一環として、レンタルサイクルを数台無料で貸し出ししている。主に外国人が利用し、イオンモール等まで利用する事もある。
- 国際大会は、多様な言語や食事、文化等への対応が必要になる。大規模イベント等の運営にはマニュアルがあるとよい。
- 地域資源を活用したツーリズムの検討。（ゴルフツーリズムなど）
- 市内の施設や人材を生かし、障がい者スポーツや医療ツーリズムの検討。
- 障がい者スポーツは観るスポーツとしても注目されていく。
- ホテルにノルディックウォーキングのポールと歩数計を設置し、健康ポイントをリンクさせて、さらに体力測定するなどの取組みが考えられる。健康診断については大学で協力ができる。健康になる観光地というのは他にはないため、集客が可能なシステムができれば魅力的な観光地となる。
- 市内の乗馬場で、全国でも珍しい障がい者乗馬セラピーを実施しており、資源として今後、活用の検討が必要。
- リハビリ旅行療法士とスポーツを組み合わせ、レクリエーションのスポーツを付帯させて、その後、健康チェックするなどの取組みが考えられる。
- アスリートのコンディション調整ができれば、医療ツーリズムにも対応できる。
- 歩数など健康とリンクした割引などが考えられる。

### イ. スポーツツーリズムの推進にあたっての課題

スポーツツーリズムの推進にあたって、まず、スポーツや観光に関する現状を把握する必要があります。また、スポーツツーリズムのターゲットと目指すべき方向性を示すことで、効果的かつ効率的な取組みを行うことができます。



## 意見

- 広い範囲でのレジャー等を含めて成田市にどのくらい人が訪れているのか、スポーツ施設の利用状況など、現状を理解することは非常に重要である。
- ターゲット、目指すべき方向が定まらないと、関わるべき人、必要な人が定まらない。
- 選択と集中による取組みが必要である。ターゲットを選択して取組みを集中して行うことが、結果として全体の利益につながる。
- 既に成田市にスポーツや観光に来ている人をよく理解し、再度成田市に来てもらうような取組みをすることで最も早く効果を得ることができる。
- スポーツとツーリズムを組み合わせることは実は難しい。スポーツをしている人は、非常にコスト削減意識が強く、車の中で宿泊したり、スポーツイベントが終わるとすぐに帰ることが多い。
- スポーツ合宿を誘致すると、施設利用や交通渋滞など住民の負担が生じる。
- 施設利用の調整は、優先度を決めて行っているため、市としてスポーツツーリズムでの施設利用の優先順位を明確にしてほしい。

## ウ. 行政に期待すること

行政に期待することとして、市民にスポーツツーリズムの必要性や取組みについて、きちんと説明することが必要とされています。また、効率的な取組みを行い、高い効果をあげることが期待されています。

## 意見

- 行政はスポーツツーリズム推進に関し、市民に説明することが役割でもある。
- スポーツツーリズムの対象者は、市外（国内、国外）であるため、市外の人たちに公的資金を投入するバランスを行政で検討する必要がある。
- スポーツツーリズムだからといって、住民のスポーツサービスやスポーツ機会の提供を考えないということではない。
- 身の丈にあった活動。口コミで広がる活動。20年経って、スポーツ合宿で、市民の生業が成立していることが理想的である。
- 宿泊滞在費の補助、空港近隣におけるスポーツ施設の新規開発。

## ③スポーツツーリズムを推進するための体制づくり

### ア. スポーツツーリズムを戦略的に推進するための核となる組織や体制

スポーツツーリズムを推進するための体制としては、市の内部にも組織が必要という意見がありました。また、誘致専門の担当者や担当部署の設置について検討する必要があります。推進体制には、スポーツ関連のメンバーのみでなく、観光関連のメンバーも参画し、持続可能な体制づくりが必要です。

## 意見

- スポーツツーリズムを推進するためには、市の中にも組織が必要である。また、誘致専門の担当者（市の職員）が必要。室のような組織で市長や副市長に直接話ができる人材が必要である。
- スポーツツーリズムの具体的な取組みや協力依頼については委員会等で検討する。
- スポーツツーリズムの取組みの検討には、スポーツ関連のメンバーを中心に推進していくことはやめた方がよい。
- スポーツツーリズムは、スポーツに参加する人やビジターをどのように連れてくるか、楽しませるかが重要であるため、このような視点を有しているメンバーと推進することがよい。
- スポーツツーリズムを推進する地域プラットフォーム組織は、NPOなどがよい。
- 委員会等で議論する内容によって、関連団体等から必要な人材の出席を検討する。
- 2020年東京オリンピック・パラリンピックは通過点であり、スポーツツーリズムの取組みを継続していく体制が必要。2020年以降も協力、発展させていきたい。
- 本市の全ての観光関連団体や店舗を調整できる既存の組織はない。全体の調整は市が担うことになると思われる。
- 委員会等はノウハウの蓄積がされ、人的なレガシーになる。
- 組織の構成、取組み内容や戦略を関係者へ定期的に開示してほしい。

## イ. 人材の活用

スポーツツーリズムを推進するための人材として、専門的な知識を有する人や、学生などのボランティアなどが考えられます。本市及び周辺市には、特にスポーツや国際交流に関する実績や知見を有する大学と高校があり、貴重な人材として活用することが考えられます。

また、大規模スポーツイベントの開催には、多くの人ボランティアとして関わることが想定されますので、ボランティアによる支援が必要な場所に適当な人材を効率的に配置するための仕組みづくりが必要です。

## 意見

- 大学には専門的な知識のある人材や、スポーツや医療のネットワークを有している人材も豊富である。
- スポーツ合宿のボランティアへの参加は、アスリートとの交流で学べることも多く、以前参加したこともあるので、参加については前向きに考えている。
- ボランティアによる交流や体験が生徒のプラスになるような教育的な内容であることや学校の年間行事予定や授業との兼ね合いが重要。
- 異文化交流は、授業の「総合学習」に充てることもできると思う。
- 交流の趣旨を明確にしてもらえると、生徒は参加しやすい。
- ボランティア（英語通訳）に参加した生徒から意見を聞いたところ、ボランティアは貴重な経験で、またボランティアに参加したいという回答がほとんどだった。
- ボランティア対象が選手のみだったため、気軽にコミュニケーションをとれる環境では

なかった。参加した生徒からは、もっと英語で話したかったという意見が多かった。

- ボランティアに参加したい生徒は多いので、どのように活躍の場を提供するかが課題である。ボランティアをコーディネートする役割が必要である。様々な能力があるボランティアを適材適所に割り振れた方がよい。
- オリンピック・パラリンピック時には、本市に多くの外国人や見学者が来ることを見据えて、ボランティア人材を整理する人材バンクのような仕組みや組織化が必要である。
- 地元の人がスポーツイベントに多く関わることで、スポーツツーリズムを推進する人材や経験が地域に根付くことにつながる。

#### ウ. キーパーソン

スポーツツーリズムを推進する体制のキーパーソンとして、大規模スポーツイベントに関連する各競技団体やネットワークを有している人が考えられます。また、観光関連のキーパーソンとして、実行主体として期待される団体等が挙げられています。

体制づくりの初動期において、キーパーソンを発掘し、巻き込むことが重要です。

#### 意見

- ソフトボールやラグビー、陸上競技に関するキーパーソンはそれぞれいる。
- 行政が把握している情報については関係者にこまめに伝える必要がある。
- キーパーソンとしては、商工会議所、青年会議所。組織に所属している人は、他の横のつながりもあるので他の組織などの協力も得られやすい。
- 商工会議所や商工会議所青年部はイベントの実行力がある。アイデアマンなど、良い人材がいる。
- 組織内に専門職の人や、他の自治体での実績がある人を入れてほしい。

## (2) 先進事例団体等との意見交換

スポーツツーリズムを推進する上での課題や先進的な取組み、体制構築などの知見を有する団体等へヒアリング調査を実施しました。

### 1) スポーツツーリズムの推進における課題や取組み

#### ①スポーツツーリズムの推進における課題や取組み

スポーツ振興からスポーツによる地方創生へとスポーツの担う役割が変化しており、スポーツツーリズムはスポーツを通じて地域・経済活性化につなげるものと言えます。

推進にあたって、国内外におけるニーズの変化への対応や、自然環境など地域資源の効果的な活用が必要です。

#### 意見

- スポーツツーリズムとは、スポーツでビジネスを創出し、地域活性化（地域づくり、まちづくり）につなげるものと言える。
- スキーやゴルフなどハードありきの商品への需要は減少傾向である。マラソン、自転車は海外のニーズが増えている。高齢化、少子化への対応も今後は必要となる。
- メガスポーツは今後目白押しであり、キャンプ誘致の需要は継続が見込まれる。
- 国内の取組みは、イベントや合宿狙いが多い。ニセコ町やみなかみ町、神流町など施設に頼らない取組みもある。地域の資源を見極めて商品化することが必要である。日本では「する」スポーツが中心であり、集客が期待できる。

#### ②短期・中長期の観点で、検討・実施が望まれる取組み

今後はインバウンドもターゲットとする必要があります。2020年東京オリンピック・パラリンピック開催等を好機として、推進・展開する必要があります。広域連携や立地を生かした取組みの可能性を検討する必要があります。

#### 意見

- 日本のスポーツ人口は減少の一途にあり、外国人観光客は3泊程度することから、今後はインバウンドもターゲットとし、宿泊してもらうことが重要である。
- 2018年から2020年は意識を変える良いきっかけで、スポーツは障がい者、子ども、高齢者も楽しめるものである。
- 北総4都市でのスポーツツーリズムの検討が必要である。成田市は宿泊施設が充実しており、広域連携を図りながら、観光地として引き上げを図る必要がある。
- 本市特有の取組みについて、以下の意見があった。
  - 時差調整を行う選手・チームがいるので、日本の玄関口という立地を生かして「コンディショニング」という切り口がある。
  - 大学と医学部附属病院の新設により、空港利用者の健診体験などスポーツ・ヘルスツーリズムの可能性はある。

→空港の近くにゴルフ場が多くあるため、ゴルフツーリズムの可能性はある。ゴルフ場が持ち回りで受入れや貸しクラブの提供を行い、ホテルや旅行代理店がビジネスにすれば、市は環境整備程度でお金をかけずに実現できる。外国人旅行者はゴルフをプレーするために日本に来ている。

→市原市や君津市は、里山を活用してノルディックウォーキングコースを設定している。本市の場合、空港周辺にウォーキングなどスポーツが出来る環境整備（コース設定や貸しボールの設置等）を図る。

### ③検討・実施が望まれる取組みにおける問題点や課題

スポーツ施設の環境整備とともに、幅広く受入れ環境を整える必要があります。特に食や文化は重要です。一方で、取組みの推進と相反関係にある施設利用が制限されることへの市民のコンセンサスを得る必要があります。

また、効果的な情報発信を行うことや取組みの効果計測も重要であり、効果計測については、来訪者へのアンケート調査等が行われています。

#### 意見

- トップアスリートのキャンプ誘致は、食事の提供について厳しく評価されるため、人のネットワークが大切である。また、トレーニング設備、対戦相手、休日や夜の過ごし方、利便性等、条件をしっかりと聞いておくことが大切である。また、ウエイト器具を持ち込む必要があり、市内の民間事業者との連携が考えられる。
- 学生の合宿においても、食はリピーターづくりに必須の要素であり、宿泊施設等にもノウハウが必要となる。
- スポーツと観光に、さらに文化を掛け合わせることが重要であり、ガイドの育成や地域のおもてなしの整備が必要である。
- 合宿誘致は、施設利用に関して、競技団体と市民とのバランスの両立が課題である。市民に対して情報をオープンにすることでコンセンサスが得やすくなる。大阪のプールでは水泳の試合を観て、解説する時間を作る取組みをしている。
- 各国や各国の旅行会社など適切な箇所へ情報を発信してPRすることが重要である。
- 効果は、経済以外の指標は計測が難しい。来訪者の満足度を高めるため、さいたま市ではメインイベント前に文化イベントを実施している。
- データ計測も重要であり、販促品で回収率を上げる工夫をしながら、イベント参加者へアンケートを行い、約60項目について数値化している。

### ④市民や地域の意識醸成や参画の仕掛け

広報などを活用し、市民や地域に対して情報発信することが重要です。また、文化交流などスポーツをしない人も交流できる仕掛けが必要です。

#### 意見

- 意識醸成の方法は様々あり、広報、Facebook、ホームページなど情報発信は重要である。



- 当時者になると満足が得られるので、今あるイベントを活用してPRを実施するなど、スポーツをしない人でも交流できる仕掛けが必要である。
- ホストタウンとしてトップアスリートとの文化交流や、市外からのスポーツイベント参加者との交流などを行っている。
- ハーフマラソン大会でゼッケンを見せると割引するサービスを行っている。事業所にとってはPRの機会になっている。

## ⑤スポーツツーリズムの推進における参考事例

地域資源を活用した事例やブランディングの成功事例等が挙げられています。

### 意見

- 関西ではLCCを活用してアジアからランナーを集める取り組みを行っている。
- ブランディングの観点でさいたま市は成功事例であり、さいたまクリテリウムは相当の税金を投入して開催しているが、ヨーロッパで「さいたま」の名が広く発信され、浸透する効果が生まれている。
- 南房総市はビーチ周辺の民宿を活用し、高校生や大学生の合宿誘致に取り組み、その結果、閑散期はあっても民宿の経営が続いている。圏央道により、東北方面の学生も呼べる。
- 甲子園のOB大会があり、様々な競技に置き換えられる。成田市は空港があるので、全国から集まりやすい。
- 三重や静岡では、インバウンド狙いのゴルフツーリズムの動きが活発化しており、北海道、沖縄、九州はビジターの受入れに積極的に取り組んでいる。ゴルフツーリズムのパッケージはまだ流通に乗っておらず、品揃えが薄い状況である。

## 2) スポーツツーリズムを推進するための体制づくり

### ①団体設立の経緯（団体や組織の参画状況や役割など）

各先進事例における、スポーツツーリズム推進組織の設立の経緯や準備期間、構成員等は様々です。但し、スポーツに限らず、観光、商工業等の幅広い分野の団体や組織の参画が共通して見られます。

### 意見

- 市の方針を契機に検討会と準備会を経て、3年度目に設立に至った。
  - 早期立ち上げを目指し、まずは市が主体となって設立し、事務局はスポーツ部局内に設置している。事務局で対応が困難な内容は、団体の構成員である旅館組合や商店会等の協力を得ている。
  - 市内に県所有の施設もあることから、県とも協力して、会場手配の調整を行っている。
- 
- 広域的な取り組みや調整を行う、広域協議会が先に立ち上がり、その事務局を担当するにあたり、JSTAに相談する中、オリンピックに向けたコミッション機能の充実と市の

姿勢を示すという2つの目的のため、市独自の組織を設置することになり、約半年程度で設立した。

- 市、商工会議所、観光協会が中心となり、協力機関と連携して取組みを実施している。
- 協力機関はスポーツ団体のみでなく、文化関係の各種団体、金融機関、学校関係を含む。

● 現市長の政策の1つである地域自治の取組みとして、市長が旗振り役となり、設立に至った。

● 設立のため、役員の人選など検討会を3～4回行い、約3ヶ月で設立に至った。

● 新聞記事をきっかけに、個人独自で経済効果を検討して、企画書を商工会や市関係課に持ち込み、関係者を集めて会議を実施した。毎年市の人口が1,000人程度減少する中、市民も相当な危機感があったことや、スポーツの文化があったことから、各団体のトップ等の賛同が得られた。

● サイクリングは、地域の景色や食（魚）を掛け合わせることでニーズはあるという自信があった。

● 初回の会議実施から約2ヶ月で法人を立ち上げた。

## ②核となる組織や体制づくりにおける留意点等

現状として全国的には行政主体の組織が多くなっています。行政主体の組織のメリットとしては、行政間の連携や行政の手続きが円滑にできることです。デメリットは、担当者は別の役割と兼務している場合が多く、また、3年から4年で担当者が異動してしまうため、ノウハウの蓄積が難しい点です。

一方、民間主体の組織のメリットとしては、自由な取組みが可能であり、デメリットは活動資金等の確保です。

### 意見

- 全国的に行政主体の組織が多く、観光や文化、もしくはスポーツの部局に属している。組織の設立により、予算執行が可能となる一方、柔軟性に欠ける面もある。
- スポーツコミッション<sup>※</sup>は、官民連携で作るものである。現状で稼げる組織はなく、補助金や予算を財源としており、独立は困難な状況である。
- 行政主導の場合、3年から4年で担当者が異動してしまう点がデメリットである。一方、スポーツ界は序列が重視される傾向で人の動きもないため、リピーター確保には同じ担当者であることが大切になる。
- 行政主体の組織で、スタッフは兼務で時間的に厳しく、人事異動もあるため、ノウハウの蓄積が難しい。
- 都道府県レベルのスポーツコミッションは情報提供がメインとなっている。

※一般財団法人日本スポーツコミッションの登録商標。

### ③核となる組織や体制の設立や運営にあたっての課題

地域プラットフォーム組織は、目的や役割等を明確にするなど、時間をかけて設立の検討を行う必要があります。

財源の確保が必要であり、政策としての位置づけや収益を生み出す取組みが必要となります。また、人的なネットワークも重要です。

#### 意見

- 短期間で設立に至ったが、組織の役割などが明確化されていない状況で、苦労している点が多い。
- 意思決定をスピーディにするために、組織の体制等について試行錯誤している。
- スポーツツーリズムの所管課は予算確保の面で必要であり、予算確保がないと事務局機能も難しい。
- 地方創生の交付金を活用している事例が多い。NPO 法人である推進組織が交付金を活用し、独自で市場調査を行い、合宿施設の構想を検討している。
- 国の補助金の交付を受けるためにも、政策としての位置づけが必要である。
- やる気のある人を掘り起こして、ビジネスとしてやってもらうことが必要である。また、地域や民間の意見を取り入れることも大切である。
- 収益事業は会議等の議題にはなるが、具体的な形に至っていない。
- 中心になる人物が重要であり、市内に人脈を多く持っていることが望まれる。
- 組織において、各競技団体との面識があり、関係の構築があると優位である。
- 合宿・キャンプ誘致については、キーマンとのコミュニケーションが必須であり、人のつながりが大切になる。
- メンバーの中の有識者として、地域経済を専門とする人が望まれる。

### (3) 市民の意見・アイデア

スポーツツーリズム推進戦略を策定するための取組みの1つとして市民からスポーツや観光に関する意見を直接聞くためにワークショップを実施しました。

スポーツ施設やイベント、観光施設など既存資源を生かした多様な取組みのアイデアが挙げられています。

#### <調査結果概要>

##### 地域資源の発掘・再確認に関する意見（主な意見）

- ゴルフ場の多さを生かして、既存の民間施設と連携した企画の検討、ゴルフツーリズムの展開。
- 中台運動公園は、立地の良さを生かし、イベント会場やキャンプ地として積極的に活用。一方で、市民利用とイベント利用の調整が必要。
- 成田や千葉県の食を売りにした出店で盛り上げるなど、スポーツイベントは、観る人やスポーツに関心の無い人も参加・楽しめるとよい。
- トランジットなど一時滞在者がスポーツを体験できる環境づくりが必要。
- ランニングやウォーキングについて、季節毎のモデルコースの作成やランニングステーションの設置などにより、外国人来訪者も気軽にスポーツに取り組めるとよい。
- 新勝寺・参道の周辺散歩マップを作成・配布し、スポーツイベント開催時に誘客を図るとよい。
- 成田国際空港の施設をイベントの場として活用できるとよい。
- 成田市さくらの山や成田ゆめ牧場など、成田山新勝寺と成田国際空港以外の魅力向上も必要。
- 特色あるお祭りが多いが、情報が分かりにくい。
- 観光案内人により観光資源の特徴をダイレクトに伝えることができるとよい。
- 観光地へのアクセス確保など、市内のアクセスを改善する必要がある、レンタサイクルや観光タクシーなどがあるとよい。
- 大会等の実績があるにも関わらず、本市には「スポーツのまち」のイメージがないため、「成田市＝スポーツ」のイメージづくりが必要である。

##### 成田流おもてなしに関する意見（主な意見）

- 国際医療福祉大学の立地により、地域との連携や大学生のスポーツボランティアとしての活躍が期待される。
- スポーツに関連する人材として、成田市出身の元アスリートやスポーツ愛好家のシニア層の活躍が期待できる。
- 市外ボランティア希望者や市民ボランティアに対し、情報発信や実践できる機会の提供が必要である。
- 成田流おもてなしとして、太鼓やお茶等の文化資源の活用や大学生によるボランティアがある。
- 他市の事例からスポーツイベントにおける地元の歓迎は重要であり、リピーターづくりにつながる。

## (4) 既往調査に見る市民意向

既往調査の結果より、スポーツツーリズムに関する市民意向を整理します。

### 1) 施策に対する満足度と重要性

スポーツツーリズムに関連する施策の「国際性豊かな観光地づくりの推進」、「国際交流の発展」、「生涯を通して学びスポーツができるまちづくり」は、全 31 施策のうち、相対的に満足度が高く、重要度が低くなっています。

他の施策と比較し、満足度の水準と比べると、重要度は低いと感じている施策であり、市民の認知度や関心を高める必要があります。

### 2) スポーツの振興

スポーツの振興を進める上で、幅広い年代や立場の人が気軽にスポーツを楽しめるような機会の創出が求められています。また、スポーツ施設の申し込み方法の改善など、スポーツ施設の一層の充実を求める意見もあります。

また、全国大会・国際大会などのトップレベルのスポーツイベントの誘致や観戦して楽しいスポーツイベント、オリンピックの事前キャンプなどの市民への情報公開等を望む意見も挙げられています。

### 3) 観光の振興

#### ①地域資源について

成田市らしいもの、成田市で誇れるものは、「新勝寺、宗吾霊堂など歴史・伝統・文化」が最も多く、「成田国際空港やホテル群、外国人観光客の多さなど国際的なイメージ」が続いています。市外に紹介したいイベントは、「成田祇園祭」が最も多く、「NARITA 花火大会 in 印旛沼」、「成田山節分会」が続いています。

#### ②必要な取組みについて

成田国際空港の魅力を高め、地域で支えていくため、「中心地や人が集まる場所に多言語案内や Wi-Fi 等を設置し、外国人にもわかりやすいまちにする」が最も多く、「国内外から市内への来訪客を、市民が歓迎し、もてなす地域づくりを進める」、「学校の授業などで子どもたちが空港を訪れる機会を増やし、地元意識を高める」が続いています。

成田市への観光客を増やすために、「観光 WEB サイトの拡充」が最も多く、「移動手段の充実」、「体験型・参加型のイベント」が続いています。

「観光協会、商工会議所、成田市がビジョンを共有し、役割分担して連携を密にする」、「外国人観光客の受入れ体制の充実」など体制づくりに関する意見も挙げられています。

また、2020 年東京オリンピック・パラリンピックの開催を控え、日本の空の玄関口として受入れ体制を整える必要があると感じている方が多くなっています。

(出典) 成田市市民意識調査報告書、NARITA みらい カフェ実施報告書、  
第 2 次成田市生涯スポーツマスタープランに関する市民意識調査報告書、  
成田市インターネット市政モニター成田市観光振興基本計画策定に係るアンケート集計結果

## 第4章 スポーツツーリズム推進上の課題

### (1) スポーツツーリズムの推進を考える上での強みと弱み

ここでは、SWOT分析手法を活用して、本市のスポーツツーリズムに関する現状を整理します。SWOT分析とは、本市の生かすべき特性（強み：Strengths）と克服すべき問題点（弱み：Weaknesses）、推進に優位となる外部環境（機会：Opportunities）、推進を妨げる外部環境（脅威：Threats）を比較することにより、現状把握を的確に行った上で、今後の適切な対応策を明らかにする手法です。

<p style="text-align: center;"><b>生かすべき特性（強み）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>国際空港を有し、本市と東京をつなぐ鉄道や高速道路なども含めた交通ネットワークが充実している恵まれた立地。</li> <li>印旛沼などの水辺空間や豊かな田園・樹林地の広がりなど豊かな自然環境。</li> <li>多くの観光客が訪れている成田山新勝寺など、国内有数の観光資源。</li> <li>日本遺産に「北総四都市江戸紀行（佐倉市・成田市・香取市・銚子市）」が認定。</li> <li>高級ホテルから手軽な民宿まで、充実した宿泊施設。</li> <li>50の公共スポーツ施設があり、充足している。</li> <li>アメリカ陸上チームの事前合宿や世界大会開催誘致の実績。</li> <li>市内競技団体や観光関連団体のスポーツツーリズムへの強い関心と取組みの実績。</li> </ul>	<p style="text-align: center;"><b>克服すべき問題点（弱み）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>成田国際空港から公共交通機関による市内各所へのアクセスが不便なため、滞在時間が短く消費効果が限定的。</li> <li>来訪者が限定された一時期に集中する。</li> <li>日帰り観光客が多い。</li> <li>観光情報の発信が不十分。</li> <li>庁内にスポーツツーリズムを推進するための専門的な組織・体制が整っていない。</li> <li>多言語化、Wi-Fi環境などの訪日外国人受入れ環境整備の遅れ。</li> <li>スポーツ施設の老朽化が進んでいる。</li> <li>スポーツツーリズムによる施設利用に関する一定の基準がない。</li> <li>市民のボランティアへの参加意向が低く、おもてなしの意識が醸成されていない。</li> <li>ボランティアを調整する仕組みがない。</li> </ul>
<p style="text-align: center;"><b>推進に優位となる外部環境（機会）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>2020年東京オリンピック等の大規模国際スポーツイベントの開催と事前合宿誘致の可能性。</li> <li>国民の健康志向の高まりと、ニュースポーツ等多様なスポーツ（フットサル、グラウンドゴルフ等）の競技人口の増加。</li> <li>地域資源を活用したスポーツや観光が注目。</li> <li>国は成長戦略としてスポーツツーリズムを推進。</li> <li>県はスポーツ合宿誘致に向けて、県内自治体との協力体制を構築。</li> <li>観光客ニーズの変化。（スポーツツーリズムの意向、ふれあい志向など）</li> <li>訪日外国人の持つ日本のイメージの良さ。（安心安全、四季の変化、独特の文化など）</li> <li>円安、LCCの拡充により、訪日外国人人数が増加し、訪日外国人の消費額も増加。</li> </ul>	<p style="text-align: center;"><b>推進を妨げる外部環境（脅威）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>スポーツツーリズムを積極的に推進する他都市との競争。</li> <li>首都圏からのアクセス性が向上されたことによる日帰り観光客の増加。</li> <li>国民のスポーツツーリズムへの認知が低い。</li> <li>スポーツツーリズムの効果が分かりにくい。</li> </ul>



## (2) スポーツツーリズムを推進するにあたっての課題

(1)で整理した内容からスポーツツーリズムを推進する上での課題を以下に整理します。

### ①ターゲットのニーズと目指すべき効果の明確化

---

本市は、2020年東京オリンピック・パラリンピックなどの大規模スポーツイベントの事前合宿をはじめ、世界陸上のアメリカ陸上チームの事前合宿や国際・全国大会等の実績により、今後、さらに多くの競技者や関係者の来訪が想定されます。また、成田国際空港や市内宿泊施設、成田山新勝寺等の有名観光施設に多くの観光客が訪れています。特に、円安、LCCの拡充により、訪日外国人数や訪日外国人による消費額も増加しています。

これら本市を訪れる人たちは多岐にわたっており、それぞれのニーズも異なり、また徐々に変化も見られます。本市で、効果的にスポーツツーリズムを推進するためには、スポーツツーリズムのターゲットのニーズを明確にする必要があります。特に、訪日外国人が持っている、日本についての良いイメージ（安心安全、四季の変化、独特の文化など）を生かしていくことも考えられます。

また、スポーツツーリズムの取組みによる効果として、経済効果や社会的効果など幅広い効果が期待されます。しかし、本市でできる取組みは限られるため、目指すべき効果を明確にし、選択と集中による取組みを行う必要があります。

### ②地域の優位性や地域資源の潜在力の活用

---

近年、自然などの地域特有の資源を活用したスポーツイベントや観光商品が注目されています。

本市は、国際空港や充実した交通ネットワークを有する恵まれた立地環境、豊かな自然環境、国内有数の歴史・文化的な観光資源などを有していますが、スポーツイベントなどにおいて、これらの地域資源を活用しきれていません。本市の観光の問題点として、限定された一時期に来訪者が集中することや、日帰り客が多いこと、地域資源間のアクセス環境が悪いため滞在時間が短く消費効果が限定的なこと、市外への情報発信が十分でないことが挙げられます。

全国的に各自治体がスポーツツーリズムを積極的に推進していく中で、本市の優位性を示すためには、既存の地域資源の潜在力を生かして、他地域にない魅力的な体験を生み出すことが必要です。また、これらの魅力的な地域資源については、国内外へプロモーションすることも必要です。

### ③基幹的な推進組織の確立

---

本市では、これまでに多くの各種スポーツ大会の開催や合宿の誘致を行ってきましたが、庁内にスポーツツーリズムを推進するための専門的な組織・体制が整っていないため、大会や合宿誘致の企画、運営、スポーツ施設の予約、宿泊施設の情報提供などを庁内のそれぞれの担当課が行う場合もあれば、各競技団体が直接行う場合もあるなど様々

です。

今後、大規模スポーツイベントの事前合宿など、多岐にわたるターゲットに対してスポーツツーリズムを推進していくためには、行政の人的支援が不可欠であり、宿泊施設や利用希望施設など各種手配の問合せ先の一元化や庁内関係部署との連携が必要になります。

また、スポーツツーリズムを推進するためには、国や県との連携・協力を図るとともに、行政のみでなく、スポーツや観光の関連団体、事業者、医療機関、学校等との連携・協力による、スポーツと観光が一体となった取組みの企画や運営を行う基幹的な推進組織が必要になります。また、これらの推進主体におけるそれぞれの役割を明確にする必要があります。

#### ④大規模スポーツイベントにおける効果の最大化と持続発展性

---

本市は、2018年の世界女子ソフトボール選手権大会の開催地の1つに決定しており、2019年のラグビーワールドカップ日本大会ではキャンプ誘致を目指しています。また、2020年東京オリンピック・パラリンピックではアメリカ陸上チームの事前キャンプ地に決定しています。しかし、大規模イベントが開催できるスポーツ施設が少なく、老朽化が進んでいるほか、多言語化、Wi-Fi環境などの訪日外国人の受入れ環境整備が遅れています。

これらの3年連続の大規模スポーツイベントを契機とし、イベント時にスポーツツーリズムに関する市民意識の最高の盛り上がりとし、最大の効果が得られるように、準備期から受入れ環境の整備や連携体制づくりを段階的に行っていくことが必要になります。また、大規模スポーツイベント時までには整備・構築する体制や環境は、その後のレガシーとなるものであることが重要です。つまり、2020年以降を見据えた継続的かつ発展的な効果創出の可能性が見込めるものを念頭とした仕組みづくりが必要です。

#### ⑤市民意識の醸成

---

近年、国民の健康志向の高まりや、多様なスポーツ（フットサル、グラウンドゴルフ等）の競技人口が増加してきています。しかし、まだ国民のスポーツツーリズムの認知度や関心は低くなっています。

本市の市民においては、ボランティアへの参加者が少ないことから、市民のおもてなしの意識が醸成されているとは言えません。スポーツや観光関連団体等においては、スポーツツーリズムへの強い関心がありスポーツツーリズムの取組みを実施している団体等もありますが、まだまだ具体的な取組みを行っている団体等は少ないのが現状です。

スポーツツーリズムを推進するためには、行政のみではなく、スポーツ関連団体、観光関連団体、宿泊事業者、市民ボランティアなどが多様な形で積極的に参画し、これらの取組みに行政と協働して取り組んでいくことが望ましいと言えます。そのため、情報発信や参加機会の提供等を通じ、広く市民に愛着や誇りを持ってもらえる取組みを進めることで、スポーツツーリズムに対する市民の意識を高める必要があります。

## 第5章 スポーツツーリズム推進戦略

### (1) 成田市を目指すスポーツツーリズムの姿

「スポーツツーリズム」とは、スポーツ資源とツーリズム（旅行・観光）資源を融合する取組みのことであり、具体的には、「スポーツ参加や観戦を目的とした旅行と、それらを実践する仕組みや考え方」と定義することができます。スポーツツーリズムの促進により、豊かな観光資源の創造、新しいビジネスの創出、地域の活性化などを目指そうとするものです。

本市では、これまでも世界・全国規模の大会やプロスポーツの試合の誘致、大規模スポーツイベント等の事前キャンプの受入れ等に取り組んできました。

そうした中、2018年の世界女子ソフトボール選手権大会の本市を含む県内4市での開催や2019年のラグビーワールドカップ日本大会、2020年東京オリンピック・パラリンピックのアメリカ陸上チームの事前キャンプ受入れなど、3年連続の大規模スポーツイベントにより、多くの人々が本市を訪れることが期待されます。

この大規模スポーツイベントを絶好の契機と捉え、これまでの取組みをさらに発展させるため、受入れ環境や体制の整備など、集中的に取り組みを推進します。そして、2020年以降（東京オリンピック・パラリンピックの閉会以降）においても持続発展的な効果創出を図りつつ、市民が愛着や誇りを持てる地域資源を活用した「成田らしさ」のあるスポーツツーリズムを目指します。

また、この3年連続の大規模スポーツイベント時に、スポーツツーリズムに関する市民意識の最高の盛り上がりと、最大の効果をあげるため、段階的にスポーツツーリズムの推進に取り組むとともに、イベント後の継続的・発展的な効果を見据える必要があります。そのため、具体的な進め方を示し、実行可能な取組みを目指します。

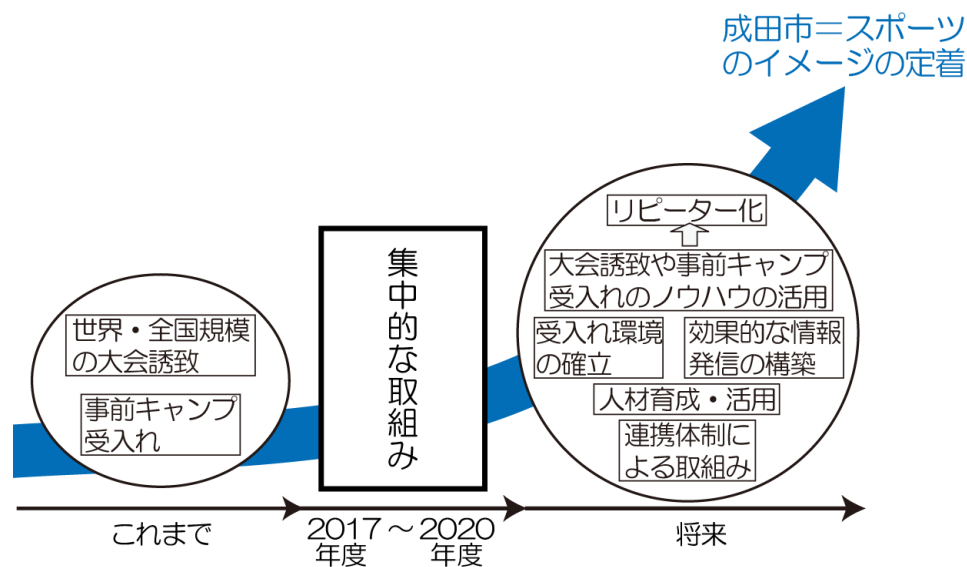


図 スポーツツーリズム推進の考え方

## (2) スポーツツーリズム推進の基本方針

### ①スポーツキャンプ・合宿や大会の誘致の発展

---

2018年から2020年の3年連続の大規模スポーツイベントを契機に生かし、施設や受入れ環境、体制などを戦略的に整備することで、魅力あるスポーツ都市づくりを目指します。

また、東京オリンピック・パラリンピックの事前合宿の受入れが成功すれば国内外の評価が高まり、以降に日本国内あるいは東アジアで開催される世界大会等の事前合宿地として選ばれる可能性も高まります。対象は外国だけでなく、海外遠征前における国内代表チーム等の合宿も考えられます。そのため、合宿誘致活動を持続的に実施し、スポーツツーリズムの効果が継続的に発揮されることが望まれます。

### ②移動を円滑にする環境づくり

---

市内観光施設及び周辺市町へのアクセスについて、主要な道路の整備とともに、鉄道、バス、タクシー、レンタカーなど様々な交通手段を活用し、交通機関相互の円滑な接続の実現の可能性を検討し、市内移動の円滑化を図ります。

### ③地域資源の活用によるコンテンツづくり

---

本市ならではの魅力的な自然や歴史・文化などの地域資源や創意を生かした新たな観光需要の開拓や、多くの人に訪れたいと思われるような、観光地としての新たな魅力の創出を目指します。

また、市内・成田国際空港周辺・県内に点在する様々な資源を特定のテーマなどでつなぎ、回遊性を高めることを目指します。

### ④おもてなしの展開及び情報発信

---

2度、3度と訪れたい観光地を目指し、質の高いおもてなしを提供できるよう、市ぐるみのおもてなしを目指します。また、本市を訪れる訪日外国人が、言葉の壁や情報収集の不自由さなどを感じることなく、安心して快適に過ごすことができるような受入れ環境を目指します。

さらに、トップアスリートの合宿に相応しい、質の高い競技施設を目指した環境の整備に加えて宿泊・食事・医療等の様々なサポート環境の整備を目指します。

情報発信については、インターネットやマスメディアなど、様々な媒体の活用を図るとともに、効果的な発信を目指します。

## ⑤スポーツツーリズムを推進する体制の構築

---

スポーツツーリズムの取組みは、行政のみならず、市民、スポーツ関連団体、観光関連団体や企業などと幅広く連携して施策を推進していく必要があります。そのため、各主体の役割を明確にするとともに、スポーツと観光が一体となった取組みの企画や運営を行う基幹的な推進組織の構築を目指します。

また、近年、大会や合宿等の運営・管理を総合的に推進・マネジメントする組織を立ち上げる事例が見られるようになりました。スポーツツーリズムに関する取組みの、より効果的な展開が期待されることから、実行委員会等の組織立ち上げなどを検討し、関連団体や企業との連携体制の構築を目指します。

## ⑥市民のスポーツへの意識向上

---

スポーツツーリズムの推進主体は、広範囲かつ多岐にわたります。2018年から2020年にかけて大規模スポーツイベントが開催されることを契機として、市民にスポーツの楽しさを伝えるとともに、スポーツツーリズムの重要性と意義などを伝えます。

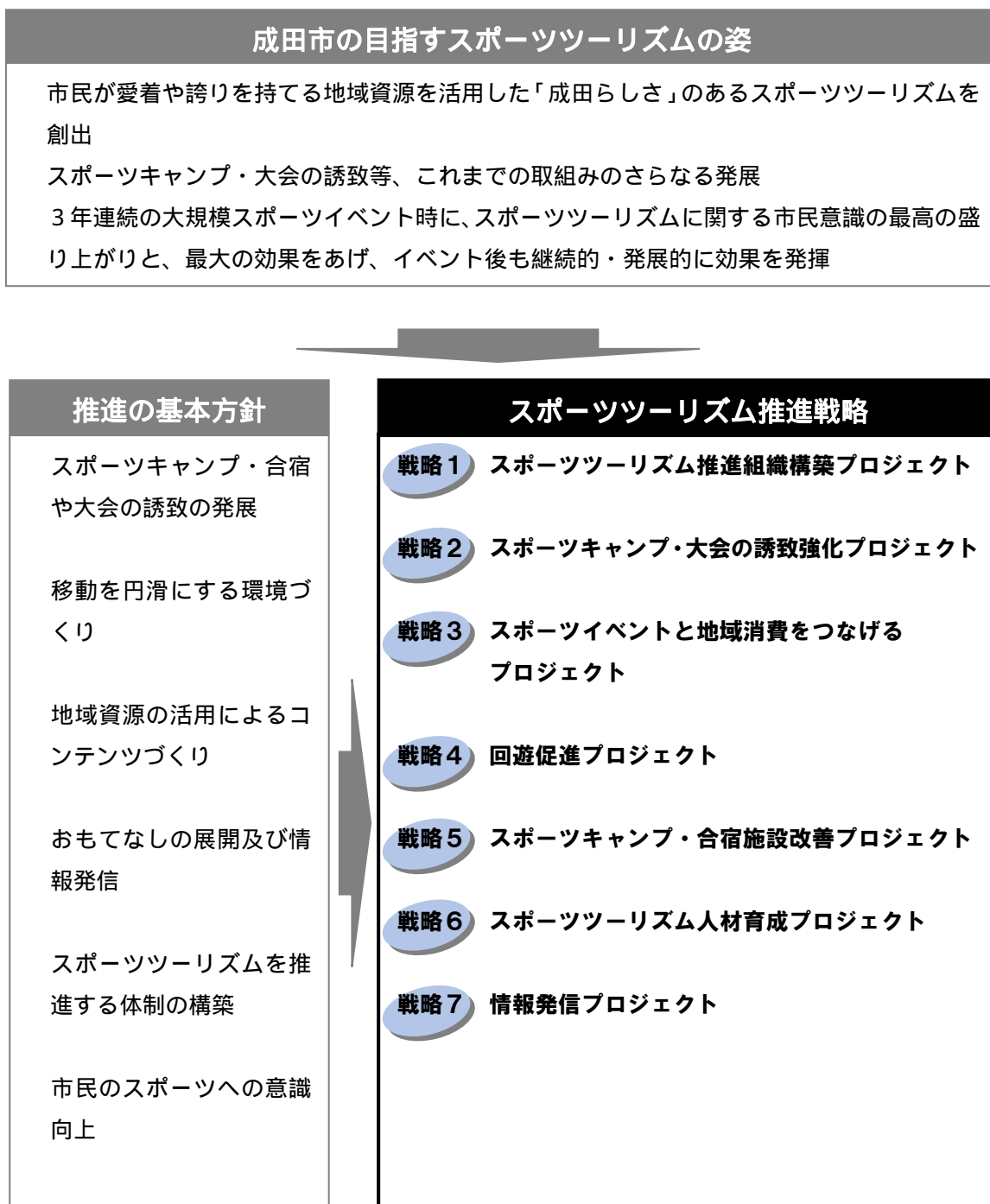
また、市民がスポーツツーリズムへの関心を高めることで、市民、地域、企業の連携やボランティアへの参画意欲につなげ、本市のスポーツツーリズムを支える人材育成等を目指します。

### (3) スポーツツーリズム推進戦略

成田市の目指すスポーツツーリズムの姿及びスポーツツーリズム推進の基本方針を踏まえ、スポーツツーリズムを推進するための以下の7つの戦略を設定します。

推進戦略の内容については、次項以降に「プロジェクトの概要」、「想定される推進主体及び連携・調整が必要な団体等」、「ロードマップ」を示しています。

#### 《スポーツツーリズム推進戦略の体系》





## 戦略1：スポーツツーリズム推進組織構築プロジェクト

### 《プロジェクト概要》

2018年の世界女子ソフトボール選手権大会、2019年のラグビーワールドカップ日本大会、2020年東京オリンピック・パラリンピックと3年連続での大規模スポーツイベント開催が予定されています。これらの大規模スポーツイベントに係る市内の関係部局は多岐にわたることから、市内での連携が必要になります。そこで、2016年（平成28年）に、これらの大規模スポーツイベントに向け、大会の開催効果を本市の活性化につなげることを目的として、「成田市2020年東京オリンピック・パラリンピック等準備委員会」を設置しました。

しかし、本市にはスポーツと観光の双方に着目して具体的な取組みを先導する組織がありません。そのため、市内にスポーツ合宿やスポーツツーリズムに係る相談・問い合わせ、スポーツツーリズムに関する支援を行う「オリンピック・パラリンピック推進室」を設置し、ワンストップ対応に努めます。

スポーツツーリズムを推進するにあたり、国や県との連携・協力を図るとともに、行政のみではなく、スポーツや観光などの多様な関連団体等との連携が必要です。そこで、スポーツと観光が一体となったスポーツツーリズムに係る取組みの企画・運営を行う基幹的な推進組織「（仮称）成田市スポーツツーリズム推進協議会」の設置に向けた検討を行います。この組織は、行政以外にも多様な関連団体等を加え構成することとします。

成田市 2020 年東京オリンピック・パラリンピック等準備委員会	市内の市内連携組織。関連部署の部長で構成された委員会。
オリンピック・パラリンピック推進室	大規模スポーツイベントの事前キャンプ等、スポーツツーリズムに係る相談・問い合わせ・支援のワンストップ窓口。
（仮称）成田市スポーツツーリズム推進協議会	行政、専門家、商工・観光関連団体、スポーツ関連団体等で構成。スポーツツーリズムの企画・運営を行う基幹的な推進組織。

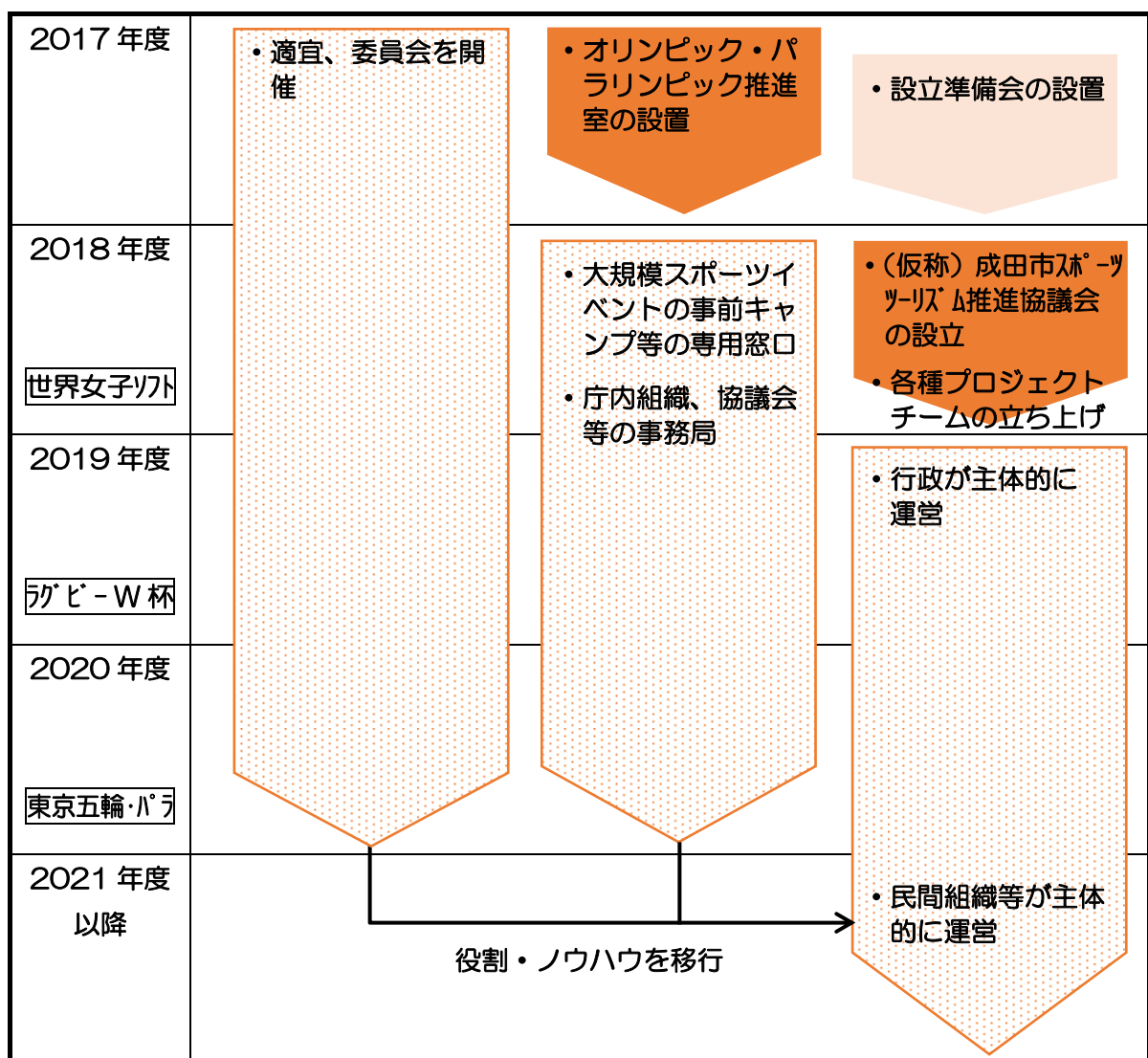
### 《想定される推進主体及び連携・調整が必要な団体等》

推進主体	オリンピック・パラリンピック推進室、（仮称）成田市スポーツツーリズム推進協議会
連携・調整が必要な団体等	体育協会／観光協会／大学／医療機関／マスコミ／旅行会社／イベント主催者 ／施設管理者／宿泊施設／成田国際空港（トランジット協議会）／各競技団体 ／周辺自治体／商工会議所／スポーツ関連企業

## 《ロードマップ》

2018年度から2020年度の大規模スポーツイベントへの対応のため、庁内の推進組織となる「オリンピック・パラリンピック推進室」を2017年度に設置します。

また、スポーツツーリズムの取組みを企画・運営する基幹的な推進組織「(仮称)成田市スポーツツーリズム推進協議会」について、2017年度に「設立準備会」を設置して、よりよい組織づくりのために、関連団体等と意見交換を行います。そして設立準備会での意見を踏まえて、2018年度における「(仮称)成田市スポーツツーリズム推進協議会」の設立を目指します。また、この組織は、初動期は行政主体で運営しますが、将来的には民間主体の運営へ移行することを想定します。



### 【凡例】

 準備

 組織の設立・設置

 組織の運営・継続

## 戦略2：スポーツキャンプ・大会の誘致強化プロジェクト

### 《プロジェクト概要》

本市では、これまでも大規模スポーツイベント等の事前キャンプの受入れや世界・全国規模の大会の誘致に取り組んできました。また、2020年（平成32年）の東京オリンピックにおいて、アメリカ陸上チームの事前キャンプを受入れることで合意している本市を含む県内3市が、アメリカ合衆国との相互交流を図る「ホストタウン」に登録されました。

また、2021年（平成33年）以降も関西ワールドマスタースゲームズなど大規模スポーツイベント開催が予定されています。

キャンプ・大会の誘致は本市のスポーツ都市としての魅力を世界や全国にアピールする機会と考えられることから、今後も事前キャンプ等の積極的な誘致に取り組めます。特に、3年連続の大規模スポーツイベントを生かし、一過性の対応だけでなく、人材育成や受入れ環境のハード・ソフト両面の充実等のレガシー創出を図り、持続的な発展につなげます。

そのため、スポーツ施設の提供のみでなく、様々なサポートや質の高いおもてなしの提供、選手や観光客等と市民との交流ができるよう、市ぐるみで受入れ内容の検討や準備を行う必要があります。

事前キャンプ等においては、受入れる競技によって、求められる受入れ環境が異なることから、それぞれの事前キャンプ等におけるおもてなしを検討します。

他のスポーツ合宿においても、歴史・文化体験や市民との交流など、本市を楽しんでもらえるおもてなしの提供を検討します。また、外国人観光客や障がい者についても、安心して快適に過ごせるように、受入れ環境の整備や情報提供を図ります。

事前キャンプ等の誘致における課題として、施設利用に関して市民利用とのバランスの問題があります。そのため、スポーツツーリズムによる施設利用の優先度を明確にする必要があります。施設の確保・提供以外にも、様々な側面からの支援が求められるため、大会開催等の広報活動など実施可能な支援内容の検討を行います。

### 《想定される推進主体及び連携・調整が必要な団体等》

推進主体	（仮称）成田市スポーツツーリズム推進協議会、オリンピック・パラリンピック推進室
連携・調整が必要な団体等	体育協会／競技団体／施設管理者／小中高等学校／大学／観光協会 ／商工会議所／宿泊施設／スポーツ関連企業／民間スポーツ施設／マスコミ ／県／周辺市町

## 《ロードマップ》

大規模スポーツイベントの受入れ時期に合わせて、2017年度（平成29年度）から2019年度（平成31年度）にかけて受入れの検討・準備とホストタウンの取組みによる市民意識の醸成を行います。事前キャンプ等においては、受入れ競技によって、求められる受入れ環境が異なることから、それぞれの事前キャンプ等におけるおもてなしを検討します。各イベントや事前キャンプで実施したおもてなしのノウハウや課題は、他のキャンプ等の受入れに生かしていきます。

誘致実績やターゲットに求められている情報を整理し、市ホームページを充実させるなど、誘致活動を推進します。市民利用とのバランス調整や受入れ環境の充実を図るため、関連団体等と連携して、施設利用の優先度や支援内容の検討を行います。

規模の大小に関わらず事前キャンプや大会を誘致するために、積極的な誘致活動を実施し、本市の受入れ環境のPR等に取り組みます。実施した誘致活動のノウハウや課題は、他のキャンプ等の誘致につなげていきます。

2017年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・キャンプや大会の受入れ検討・準備</li> <li>・ホストタウンの取組みによる市民意識の醸成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市ホームページ等の充実</li> <li>・施設利用の優先度や支援内容の検討</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・誘致活動の実施</li> </ul>	
2018年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・おもてなしの検討</li> </ul>			
世界女子リフト				
2019年度				
カギ-W杯				
2020年度		<ul style="list-style-type: none"> <li>・おもてなし実施</li> <li>・トップアスリートと市民の交流</li> </ul>		
東京五輪・パラ				
2021年度以降		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ノウハウを他のキャンプ等の受入れに活用</li> <li>・イベント後も継続した交流</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ノウハウを他のキャンプ等の誘致に活用</li> <li>・誘致活動の継続</li> </ul>	

### 【凡例】



検討・準備



受入れ・誘致



ノウハウ活用・取組みの継続

## 戦略3：スポーツイベントと地域消費をつなげるプロジェクト

### 《プロジェクト概要》

本市では、国際・全国レベルから市民レベルまで多数のスポーツイベントを開催しています。しかし、選手や観戦者などはイベントが終わるとそのまま帰ってしまい、本市の歴史・文化などの観光や食などの消費活動がほとんど行われていません。

そこで、スポーツイベントの会場もしくはその周辺において、本市の食やレクリエーションなどの魅力を発信することで、地域を知る機会を創出し、スポーツイベント参加者の本市への再来訪につなげます。また、スポーツイベントへの参加者だけでなく、比較的時間に余裕のある付き添いや応援に来ている人、その他一般の来場者については、市内への回遊につなげ、地域消費の拡大を図ります。

具体的な取り組みとしては、既存のスポーツイベント等の会場もしくはその周辺における、地域の特産品の店舗や観光ブースの出店、スポーツイベントの前夜祭等の開催、体験イベントの実施、スポーツイベント参加者への商品割引などが想定されます。これらについては、イベント運営者や施設管理者への負担がないように、多様な団体等と連携・調整を図ります。

また、地域消費や地域を知る機会などの創出に貢献できるように、イベント運営者との協議によりスポーツイベント内容の見直しについて検討します。

### 《想定される推進主体及び連携・調整が必要な団体等》

推進主体	オリンピック・パラリンピック推進室、(仮称)成田市スポーツツーリズム推進協議会
連携・調整が必要な団体等	イベント主催者／施設管理者／競技団体／観光協会／商工会議所

## 《ロードマップ》

2017年度は、既存のスポーツイベント主催者及び観光関連団体や観光関係の店舗等から意向を聴取しながら、取組みによる効果検証及び具体化に向けた課題を把握します。

2018年度は、上記の結果等を踏まえ、実現化に向けた検討と合わせて、関係者と調整し、取組み実施が可能なイベントを把握して、モデル事業を抽出します。

2019年度は、モデル事業の実施とともに、市内の他のスポーツイベント等での普及を図っていきます。

2017年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>取組みによる効果検証及び具体化に向けた課題抽出</li> </ul>
2018年度 世界女子ソフト	<ul style="list-style-type: none"> <li>実現化に向けた検討</li> <li>モデル事業の抽出</li> </ul>
2019年度 ラグビー-W杯	<ul style="list-style-type: none"> <li>実施</li> </ul>
2020年度 東京五輪・パラ	<ul style="list-style-type: none"> <li>他のイベントにも波及</li> </ul>
2021年度以降	

### 【凡例】



調査



検討



運営・継続



## 戦略4：回遊促進プロジェクト

### 《プロジェクト概要》

本市は、成田国際空港や成田山新勝寺などの観光施設があり、多くの観光客が訪れています。しかし、観光施設など地域資源をつなぐ公共交通ネットワークが弱いため、観光客は市内に点在する地域資源を回遊することが困難です。また、スポーツイベントの参加者や観戦者は、イベントが終わると、市内を観光しないで帰ってしまっています。

そのため、成田国際空港や鉄道駅、スポーツ施設などのスポーツイベントや観光の拠点施設から、安全かつ気軽に、自然や歴史・文化などの地域資源への回遊を促す取組みを検討します。本プロジェクトの回遊の手段は、公共交通のみならず、ウォーキングやランニング、自転車など気軽な運動による移動も対象とします。また、地域資源をより楽しんでもらうために、地域資源に関する情報などを提供することも必要です。

具体的な取組みとしては、歩行空間の景観整備、案内情報の強化、観光タクシーなどの多様な交通手段の活用、拠点施設や観光施設をつなぐ回遊マップの作成、スポーツ施設や宿泊施設など拠点を中心とした市内への回遊を促す仕組みや手段などを検討します。

また、自転車やランニング等の回遊について、近隣市町との連携を図り、近隣市町それぞれの魅力ある場所（温泉、商業施設等）をつなぐことで、回遊の促進及びリピーターの創出を図ります。

### 《想定される推進主体及び連携・調整が必要な団体等》

推進主体	(仮称) 成田市スポーツツーリズム推進協議会
連携・調整が必要な団体等	施設管理者／宿泊施設／成田国際空港（トランジット協議会） ／観光協会／商工会議所／周辺市町／スポーツ関連企業／交通事業者

## 《ロードマップ》

既に整備済み又は現在整備中である、花の回廊、首都圏自然歩道、義民ロードを活用した回遊ルートの開発・整備について検討を行います。


回遊マップについては、多くの訪日外国人が本市を訪れる、2020年度の東京オリンピック・パラリンピックに合わせて、作成を目指します。

回遊ルートは、ウォーキングやランニング、サイクリングなど多様な回遊ルートが想定されます。そのため、活用すべき地域資源を確認するとともに、歩行者や自転車などが安全に移動できる環境であるかを確認する作業を行っていきます。

2017年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>既存の道路環境を活用した回遊ルートの開発・整備</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域資源の確認（街歩き等）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>関係者の意向把握</li> <li>近隣市町との連携の検討</li> </ul>
2018年度			
世界女子ソフトボール			
2019年度		<ul style="list-style-type: none"> <li>回遊マップの作成</li> </ul>	
ラグビーワールドカップ			
2020年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>維持管理</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>回遊マップの活用</li> <li>内容の改善検討</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>関係者との連携</li> </ul>
東京五輪・パラリンピック			
2021年度以降			

### 【凡例】

 調査

 検討・作成・整備

 活用・継続

## 戦略5：スポーツキャンプ・合宿施設改善プロジェクト

### 《プロジェクト概要》

本市のスポーツ施設は、その多くで老朽化が進んでおり、トップアスリートの要望を十分に満たす競技環境とはなっていません。2018年から2020年の大規模スポーツイベントの事前キャンプ等において、本市の施設を利用するトップアスリート等に良い環境を提供することにより、トップアスリートのリピーター化や、スポーツキャンプ・合宿地として本市を国内外へPRすることにもつながります。

そのため、大規模スポーツイベントの事前キャンプ等で利用するスポーツ施設について、施設の改修、バリアフリー化、用具等の充実など、施設の改良・改善を計画的に推進します。

事前キャンプ等を行う上でのスポーツ施設への要望に対して、公共スポーツ施設だけでその全てに対応するには困難がある場合、スポーツクラブや大学、ホテルなど民間のスポーツ施設の活用について、関連団体等と調整を行い、スポーツキャンプ・合宿での施設環境の改善を図っていきます。

これらの大規模スポーツイベントを契機とした公共スポーツ施設等の改善・充実は、市民のスポーツ環境の改善・充実につながるものでもあります。

### 《想定される推進主体及び連携・調整が必要な団体等》

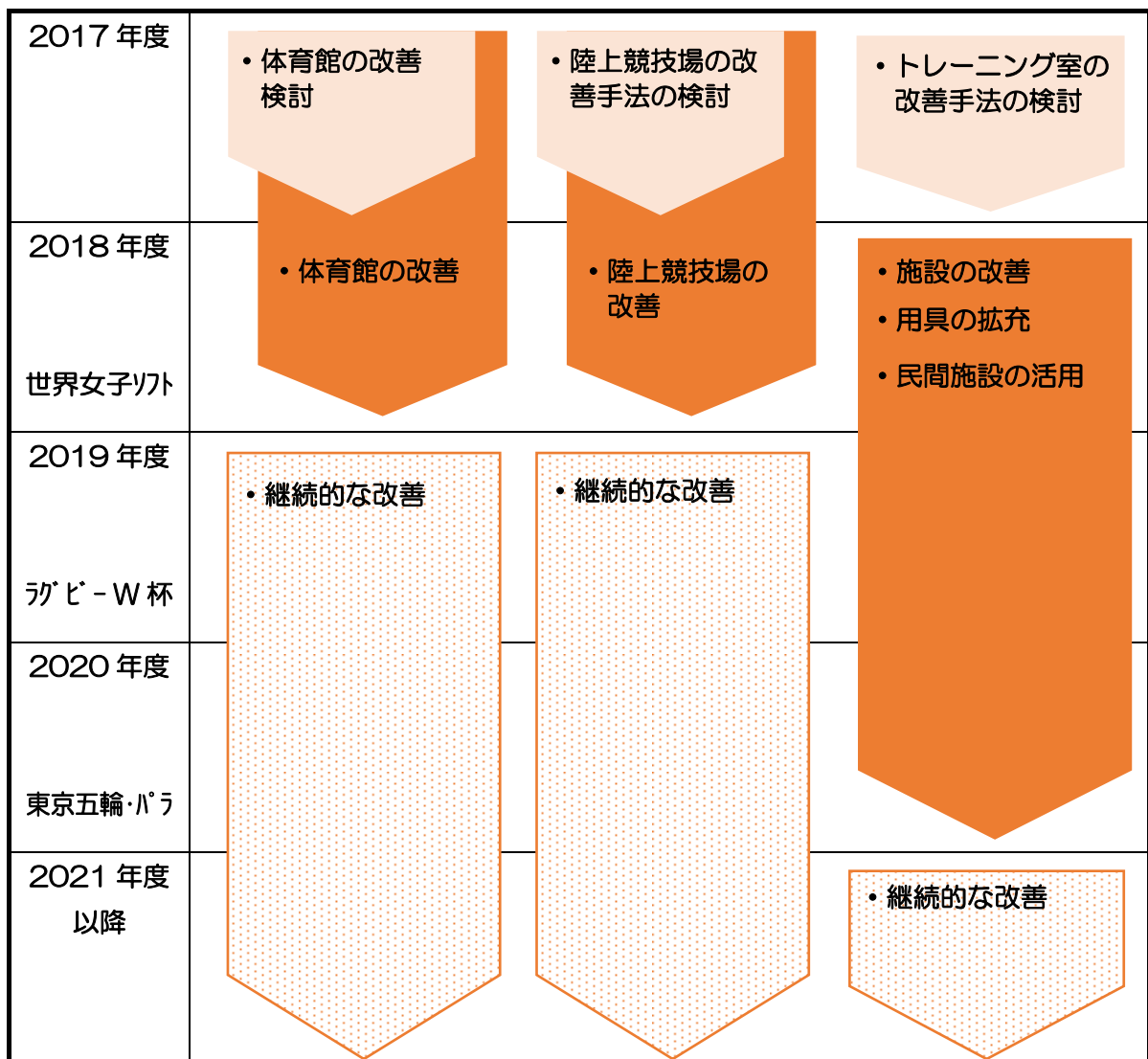
推進主体	オリンピック・パラリンピック推進室、施設管理者
連携・調整が必要な団体等	(仮称)成田市スポーツツーリズム推進協議会／競技団体／スポーツ関連企業 ／民間スポーツ施設／大学／高等学校／宿泊施設

## 《ロードマップ》

2018年度から2020年度の大規模スポーツイベントの事前キャンプ等への対応として、それぞれの施設等の改善を行います。

現在、中台運動公園の体育館については空調設備の改修を計画しており、今後、老朽化に伴う修繕等を行っていきます。陸上競技場については2017年度から公認陸上競技場の認定に向けての改修を実施していきます。

トレーニング室は、様々な競技のアスリートが利用することが想定されるため、大規模スポーツイベントの事前キャンプで利用するアスリートの要望を把握し、対応していきます。



### 【凡例】

-  改善手法等の検討
-  施設等の改善
-  継続的な改善

## 戦略6：スポーツツーリズム人材育成プロジェクト

### 《プロジェクト概要》

スポーツツーリズムを推進するためには、スポーツを「する人」、「観る人」のみでなく、スポーツを「支える人」も重要です。スポーツツーリズムを「支える」人材としては、スポーツや観光に関する専門的な技術や知識を有するスタッフの他に、市民や学生等のボランティアなどがおり、スポーツツーリズムを推進するためには、これらのノウハウを持った人材を活用することが必要です。また、これらの「支える」人材は必要に応じて市外からの人材を活用しますが、市内に「支える」人材のノウハウを蓄積するためにも、可能な限り市民や市内関連組織を活用することが望ましいと考えます。

市内の高等学校や大学には、スポーツイベント時にボランティアへの参加を希望する生徒・学生が少なからずいますが、過去のイベントでは、支援内容とボランティアのマッチングがうまくできていませんでした。また、市民のスポーツボランティアへの参加意向が低いのが現状です。

そのため、スポーツツーリズムを「支える」人材の育成を図るとともに、市民のスポーツボランティアの意識醸成を図ります。また、事前キャンプ等に必要な支援と「支える」人材をつなげる仕組みや体制を構築します。

具体的な取り組みとして、ボランティア育成講座、教育機関（高等学校、大学）と連携したスポーツツーリズムに関する公開講座などの実施を検討します。また、人材情報を管理する人材バンクの開設を検討します。

中長期的な観点として、経験豊富な元アスリートなどのセカンドキャリアとしての活用や、専門的知識や経験を有する外国人の活用などを想定した、専門人材の活用・育成に関する仕組みについて検討します。

### 《想定される推進主体及び連携・調整が必要な団体等》

推進主体	オリンピック・パラリンピック推進室、(仮称)成田市スポーツツーリズム推進協議会
連携・調整が必要な団体等	体育協会／競技団体／高等学校／大学／観光協会／商工会議所

## 《ロードマップ》

2018年度からの大規模スポーツイベントの開催に合わせて、「支える」人材の活用のため、ボランティア育成講座及び人材バンクの開設、専門人材の育成の検討を行います。

2017年度は、必要な支援内容や人材の確認、ボランティア育成講座の内容を検討します。また、スポーツツーリズムに関するノウハウのある人材へ人材バンクへの協力を依頼します。そして、2018年度は、ボランティア育成講座の実施及び人材バンクの開設を行います。

専門人材の活用・育成については、人材育成に詳しい専門家や学識者の意見を聞きながら、実現の可能性を検討していきます。しかし、専門人材の育成は、短期的に効果を出すことは困難であるため、中長期的な取組みとします。

2017年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティア育成講座の内容の検討</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要な支援・人材の確認</li> <li>・ノウハウのある人材への協力依頼</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・専門人材の活用・育成に詳しい専門家や学識者への相談</li> </ul>
2018年度 世界女子ソフト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティア育成講座の実施</li> <li>・市民意識の醸成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人材バンクの開設</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実現可能性の検討</li> </ul>
2019年度 ラグビー-W杯	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティア育成講座の継続実施</li> <li>・育成した人材の活用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人材バンクの継続的な運営</li> <li>・人材バンクの人材の活用</li> </ul>	
2020年度 東京五輪・パラ			
2021年度以降			<ul style="list-style-type: none"> <li>・専門人材の活用・育成の実施</li> <li>・継続的な育成</li> </ul>

### 【凡例】



検討・準備



実施・ネットワーク構築



継続・活用



## 戦略7：情報発信プロジェクト

### 《プロジェクト概要》

本市では、これまで世界大会の開催やアメリカ陸上チームの事前キャンプなどを誘致しましたが、成田市＝スポーツのイメージが市内外に定着していません。2018年から2020年の大規模スポーツイベントの開催や事前キャンプ等により、メディア等で本市の露出機会が増えることを契機として、国内外にしっかり本市のスポーツツーリズムをアピールすることが必要です。

そのため、本市のイメージ形成、新規来訪者やリピーターの増加を目指し、スポーツに関する情報に加え、歴史・文化的な観光資源など地域の魅力を国内外へ発信するプロモーションを総合的に推進します。また、市民のスポーツツーリズムへの参画を促すため、市外への情報発信のみでなく市民に向けてスポーツツーリズムの情報や取組みを発信していきます。

具体的な取組みとしては、インターネットを活用した国内外への情報発信、空港や鉄道駅などを活用したPR、PRイベントの開催、マスコミと連携したPR活動などを検討します。特に、大規模スポーツイベントにより、本市に多く訪れる外国人観光客に対するプロモーションを強化します。

また、市民のスポーツツーリズムへの参画を促すための取組みとしては、ボランティア募集の告知、ホームページの充実、本市や千葉県内で開催させる大規模スポーツイベントの競技への理解を深める体験教室、トップアスリートによる講演会の開催などのPR活動を検討します。

これらのPR活動を行うためには、多様な関連団体等と連携・調整が必要になります。また、必要に応じて、トップセールスを効果的に行うことも考えられます。

### 《想定される推進主体及び連携・調整が必要な団体等》

推進主体	オリンピック・パラリンピック推進室
連携・調整が必要な団体等	(仮称)成田市スポーツツーリズム推進協議会／体育協会／競技団体 ／観光協会／商工会議所／成田国際空港（トランジット協議会）／交通事業者 ／マスコミ

## 《ロードマップ》

2018年度から2020年度の大規模スポーツイベントで、本市を訪れるアスリートや観戦者が増加することが想定されるため、大規模スポーツイベントに合わせてPR活動の検討を行います。

2017年度は、ターゲットに求められている情報を整理するとともに、空港や鉄道駅などの交通機関と協力してPR活動を行えるように調整を行います。そして、2018年度からそれぞれのPR活動を行います。情報発信を行うスポーツに関する情報や地域資源のPRについては、関連団体等と調整を行い、PR活動のタイミングを調整します。

2017年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>観光客が求めている情報の整理</li> <li>市民が求めている情報の整理</li> <li>関連団体等との連携の検討・調整</li> <li>関係部署との調整</li> </ul>
2018年度 世界女子ソフト	<ul style="list-style-type: none"> <li>空港や鉄道駅などの交通機関と協力したPR活動</li> <li>広報誌やホームページ等を活用したPR活動</li> </ul>
2019年度 ガビ-W杯	
2020年度 東京五輪・パラ	
2021年度以降	<ul style="list-style-type: none"> <li>情報発信の継続</li> </ul>

### 【凡例】

 調査・検討
  実施
  継続

## 参考資料

### (1) 戦略検討の経緯

年月日	取組みの経過	主な協議・報告内容
2016年（平成28年） 10月7日	成田市2020年東京オリンピック・パラリンピック等準備委員会	アンケート調査
10月25日 ～11月28日	市内関連団体アンケート調査	スポーツツーリズムの推進への意向、取組みの状況・予定、体制づくりへの参画意向
12月14日 ～12月26日	市内関連団体ヒアリング調査	推進に必要な取組み、推進するための体制づくり
2017年（平成29年） 1月11日 ～1月24日	先進事例等ヒアリング調査	推進における課題や取組み、推進するための体制づくり
1月29日	市民ワークショップ	地域資源（スポーツ・観光・人材）、成田流おもてなし
3月16日	成田市2020年東京オリンピック・パラリンピック等準備委員会	成田市スポーツツーリズム推進戦略（案）

## (2) 成田市 2020年東京オリンピック・パラリンピック等準備委員会設置要綱(案)

### (設置)

第1条 2018年世界女子ソフトボール選手権大会、2019年ラグビーワールドカップ及び2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会(以下「大会」という。)に向け、大会の開催効果を本市の活性化につなげることを目的として、市内の各組織が相互に連携を図り、大会に係る施策を推進していくため、成田市 2020年東京オリンピック・パラリンピック等 準備委員会(以下「委員会」という。)を設置する。

### (所掌事務)

第2条 委員会は、前条の目的を達成するため、次に掲げる事務を行う。

- (1) 大会の開催に係る情報収集及び提供に関すること。
- (2) 大会参加選手団のキャンプ誘致及び受け入れ態勢に関すること。
- (3) 前各号に掲げるもののほか、大会に関連する施策の推進に必要な事項。

### (組織)

第3条 委員会は、別表第1に掲げる者をもって組織する。

- 2 委員会に委員長を置き、シティプロモーション部長の職にある者をもって充てる。
- 3 委員長に事故があるときは、あらかじめ委員長が指名した者がその職務を代理する。

### (会議)

第4条 委員会の会議は、委員長が招集し、その議長となる。

- 2 前条第1項に規定する者がやむを得ない事由により委員会の会議に出席できないときは、その者の指示した者が代理出席することができる。
- 3 委員会の会議には、委員長が必要と認める者を出席させ、説明させることができる。

### (検討部会)

第5条 第2条各号に掲げる事務を円滑に遂行するため、委員会に検討部会を置く。

- 2 検討部会は、別表第2に掲げる者をもって組織する。
- 3 検討部会に部会長を置き、スポーツ振興課長の職にある者をもって充てる。
- 4 検討部会の会議は、部会長が招集し、その議長となる。
- 5 第2項の規定する者がやむを得ない事由により検討部会の会議に出席することができないときは、その者の指示した者が代理出席することができる。
- 6 検討部会の会議には、部会長が必要と認める者を出席させ、説明させることができる。

### (事務局)

第6条 委員会及び検討部会の事務局は、スポーツ振興課に置く。

### (委任)

第7条 この要綱に定めるもののほか、委員会及び検討部会の運営に関し必要な事項は、委

員長が別に定める。

附 則

この要綱は、平成28年9月20日から施行する。

附 則

この要綱は、平成29年4月1日から施行する。

別表第1

企画政策部長 シティプロモーション部長 福祉部長 教育部長
-------------------------------

部内において、参事等の補職が生じた際は、委員とする。

別表第2

企画政策課長 観光プロモーション課長 スポーツ振興課長 文化国際課長 障がい者福祉課長 教育総務課長 教育指導課長
--

### (3) 関連団体等の意向調査

#### 1) 市内関連団体アンケート調査

##### ①目的

本市の競技団体や観光関連団体をはじめとするスポーツツーリズムに関連する団体から、スポーツツーリズムに対する考え方や取組み状況などについての意見等を聞き、今後のスポーツツーリズム推進の方向性を検討していくための基礎資料とすることを目的としています。

##### ②調査対象

スポーツ競技関連：47件、観光関連：35件、交通関係団体：8件、教育機関：7件、施設管理関係：14件、旅行会社：18件

##### ③調査内容

スポーツツーリズムの推進への意向、スポーツツーリズムに関する取組みの状況と今後の予定、推進するための体制づくりへの参画意向を聞きました。

##### ④調査方法

アンケート調査票を郵送により配布・回収

(調査期間：2016年(平成28年)10月25日～2016年(平成28年)11月28日)

##### ⑤回収結果

76件(回収率59%)

## 2) 市内関連団体ヒアリング調査

### ①目的

本市の競技団体や観光関連団体をはじめとするスポーツツーリズムに関連する団体から、スポーツツーリズムに対する考え方や取り組み状況などについての意見等を聞き、今後のスポーツツーリズム推進の方向性を検討していくための基礎資料とすることを目的としています。

### ②調査対象

一般社団法人成田市体育協会、一般社団法人成田市観光協会、ヒルトン成田、成田国際空港株式会社、学校法人 成田山教育財団 成田高等学校、千葉県立成田国際高等学校、順天堂大学、国際医療福祉大学、公益財団法人成田市スポーツ・みどり振興財団

### ③調査内容

本市におけるスポーツ・観光の特徴、今後、スポーツツーリズムを推進するために必要な取り組み、スポーツツーリズムを推進するための体制づくりについて聞きました。

### ④調査方法

事前にヒアリングシートを配布し、対面によるヒアリング形式  
(2016年(平成28年)12月14日~2016年(平成28年)12月26日)

## 3) 先進事例等ヒアリング調査

### ①目的

スポーツツーリズムに関連する各種団体・企業等から、スポーツツーリズム推進上の課題や必要な取り組み、体制づくり等について、各種団体の経験や立場から意見等を聞き、今後のスポーツツーリズム推進の方向性を検討していくための基礎資料とすることを目的としています。

### ②調査対象

一般社団法人日本スポーツツーリズム推進機構、一般財団法人日本スポーツコミッション、公益財団法人ちば国際コンベンションビューロー 千葉県スポーツコンシェルジュ、株式会社JTBコーポレートセールス、前橋スポーツコミッション、三島市スポーツ・文化コミッション、きさらづスポーツコミッション、NPO 法人銚子スポーツコミュニティー

### ③調査内容

各団体の設立の経緯や取り組み内容、スポーツツーリズムの推進における課題や取り組み、スポーツツーリズムを推進するための体制づくりについて聞きました。

### ④調査方法

事前にヒアリングシートを配布し、対面によるヒアリング形式  
(2017年(平成29年)1月11日~2017年(平成29年)1月24日)



## 4) 成田市のスポーツ×観光について語るワークショップ

### ①目的

「成田市スポーツツーリズム推進戦略」を策定するための取組みの1つとして、市民から、本市におけるスポーツや観光に関するいろいろな意見を直接聞くために開催しました。

### ②実施方法

意見交換は、ブレインストーミング（KJ法）による、多様な立場の参加者からたくさん意見を収集（発散中心）するものとなりました。

会場全体を4テーブルに分けて、共通のテーマについて意見交換を実施しました。テーマは、数多くの意見を収集できるよう、以下の2つを設定しました。

#### ○意見交換のテーマ

- ・地域資源（スポーツ、観光、人材）を発掘・再確認しよう！
- ・成田流おもてなしへの夢ややりたいことを語ろう！

### ③開催概要

項目	内容
開催日時	日時：2017年（平成29年）1月29日（日） 時間：13：30～16：00（2時間30分程度）
開催場所	赤坂ふれあいセンター 大会議室 （ボンベルタ成田店 アネックス館B棟 2階） ※託児室：和室1-B
対象者の選定基準	市内在住の18歳から49歳の方 （住民基本台帳から無作為抽出で選定された2,000名のうち参加を希望する方、及びその家族又は友人1名まで）
参加者	20名（応募者：24名、当日欠席：4名）



## 成田市スポーツツーリズム推進戦略

---

発行 成田市  
編集 企画政策部企画政策課  
〒286-8585  
成田市花崎町 760 番地  
TEL 0476 (20) 1500  
発行日 平成 29 年 3 月  
登録番号 成企 16-068



